てんとさいと

画：井口　宮子

草加山の会　　No.　235

夢双山の会

目 次

＊2016 年 6 月から 8 月山行実績	リーダー部・機関誌部	1
＊心に残る山行　薬師岳（折立～室堂縦走）	山崎　正夫	3
＊思い出深い山行	八並　絹代	4
＊サンショウバラ＆不老山	新庄　八重	5
＊檜洞丸	畑野　順二	6
＊日和田岩トレ	西尾　学	7
＊筑波山№1、№2	黒澤　登美江・鈴木　里子	8
＊花の三つ峠山	石井　文子	9
＊庚申山	森　律子	10
＊金峰山・瑞牆山	三浦　藤博	11
＊東京散歩「麻布～六本木～赤坂～日本高度水準点」を歩く	松浦　剛 平野　祥子	13
＊勘七の沢	柳瀬　真由美	15
＊西丹沢　河内川水系　火打沢（ヒイチサワ）	長田　一樹	16
＊入笠山　公開バスハイク 1 班	畑野　仁美	20
＊　〃　公開バスハイク 2 班	宮地　敬介	21
＊　〃　公開バスハイク 3 班	新島　和子	22
＊　〃　公開バスハイク 4 班	柳瀬　真由美	23
＊　〃　公開バスハイク 5 班	浅井　昭光	24
＊入笠山　下見	井口　宮子	24
＊入笠山（番外編）	宮地　敬介	25
＊鬼怒沼～鬼怒沼山	大門　京子	26
＊太平山	小野寺　英子	27
＊飯盛山・天女山	兼堀　恵美子	28
＊雲取山	新島　和子	30
＊笠取山と唐松尾山	四宮　慎太郎	31
＊笠取山から唐松尾山（番外編）	宮地　敬介	33
＊男体山	出口　栄子	34
＊平ヶ岳（中ノ岐林道往復コース）	山本　理郎	35
＊八幡平・八甲田山	兼堀　善和	36
＊子持山	柳瀬　真由美	38
＊日光　切込湖・刈込湖	関口　美津江	41
＊幌尻岳・夕張岳	山崎　正夫・大門　京子	40
＊初めての北海道の山「富良野岳」「夕張岳」	松浦　剛	43
＊赤岳	小林　いつ子	46
＊28 ・ 7 ・ 30　赤岳　滑落事故報告	小林　いつ子	47
＊赤岳	畑野　順二	48
＊千枚岳・荒川三山・赤石縦走	小野寺　英子・石井　美樹	49
＊草津白根山	澁谷　久美子	51
＊朝日岳　三本槍岳　茶臼岳	金野　喜代美	52
＊尾瀬ヶ原～アヤメ平	村上　綾	53
＊下棚沢（西丹沢）	山崎　寧子	54
＊白峰三山	森　律子	56
＊針ノ木岳～唐松岳	畑野　順二	57
＊丹沢大山「大山川右俣の遡行」	松浦　剛	58

平成28(2016)年6月～8月山行実績　リーダー部・機関紙部

山行	日　程	山 岳 名	リーダー	参　　加　　者
個	6/3	不老山	新庄	山本、平野、関口、石井（文）
個	6/4	檜洞丸山	畑野（順）	新島、山崎（寧）浅井（祐）八並、平野（お試し）
リ	6/5	岩トレ（日和田）	松浦	長田、森（律）、出口、柳瀬、中川、四宮、西尾
個	6/5	筑波山	小野寺	黒澤、上原、小林（い）
個	6/11	三ツ峠山	石井（文）	小野寺、平野、新庄、森（花）中島、村上（お試し）
個	6/11	庚申山	森（律）	山崎（正）、畑野（順）、染谷
個	6/11～12	金峰･瑞牆山	山口（裕）	三浦、大門、新島、山崎（寧）、西尾、他一名
個	6/16	江戸歩き（麻布）	松浦	松田、山本、小野寺、木原、上原、鎌形、平野、兼堀（恵）、小林（真）、小林（い）、中川、杉山
会	6/18	勘七の沢	沼田	松浦、柳瀬、鎌形、山崎（寧）、西尾、他一名
会	6/19	入笠山（公開バスハイク）	井口	会員２３名、一般２９名
会	6/25～26	鬼怒沼山	大門	新島、森（律）兼堀（恵）、山口（敏）出口、下川
24				
個	6/28～30	北海道（夕張岳・富良野岳）	山本	阿部、松浦、兼堀、新庄、八並、木原、関口、平野、森（花）鎌形
会	7/2	小川谷	沼田	山口（裕）森（律）、西尾、鈴木（勝）山崎（寧）、鎌形、柳瀬
個	7/5	大平山	小野寺	黒沢、上原、松田
個	7/5～6	飯盛山･天女山	兼堀（恵）	石井（文）、澁谷、木原、平野、大門、中島、江崎、八並、杉山
個	7/9	男体山	小林（い）	出口、森（花）
個	7/9～10	雲取山	新島	森（律）大門
沢	7/10	長久保沢	長田	沼田、他２名
個	7/10	笠取山～唐松尾山	宮地	石井（美）、兼堀（善）、四宮
個	7/16～17	平ケ岳	小野寺	山本、和田、鈴木（勝）
個	7/16～19	八幡平･八甲田	兼堀（善）	石井（美）、石井（文）、染谷、森（律）、八並、出口
個	7/17	子持山	柳瀬	宮地、松井、森（花）鎌形
会	7/20	日光切込～刈込湖	関口	黒沢、上原、中島、木原＋一名、下川、浅井（祐）、兼堀（恵）
個	7/20～26	幌尻岳、他	山崎（正）	山崎（寧）、大門、渋谷
個	7/22～25	北海道中央	山口（裕）	三浦、新島
個	7/23～24	蝙蝠岳	園木	
個	7/24	筑波山	小野寺	黒沢、上原、鈴木（里）、松田
個	7/28～29	赤岳	小林（い）	出口、他一名

個	7/28～30	剣～立山	浅井（祐）	渋谷、平野、大門
個	7/30～31	南八ヶ岳	畑野（順）	畑野（恵）、新島、四宮、森（律）
個	7/30 ～ 8/2	荒川三山	石井（美）	小野寺、兼堀（善）、和田、鎌形、森（花）、山本
会	8/3	白津･白根山	渋谷	兼堀（恵）、黒澤、下川、芳野、江崎、石井（文）、関口、阿部、村上、上原、鈴木（里）
個	8/7	那須～三本槍	山崎（寧）	金野、松井、宮地
個	8/9～10	尾瀬	下川	杉山、渋谷、山崎（正）、村上、木原、他２名
個	8/12	谷川岳･西黒尾根	浅井（昭）	浅井（祐）
個	8/13～15	白峰三山	森（律）	鎌形、大門、森（花）
個	8/13～17	針ノ木～唐松	畑野（順）	
個	8/13～17	朝日連峰	園木	八並、加藤、平野
会	8/19～21	甲斐駒	山口（裕）	四宮、柳瀬、森（花）、鎌形、森（律）、西尾、出口
個	8/22～24	飯豊山	山崎（正）	下川
会	8/26～28	羽黒山･鳥海山・月山	兼堀×２	平野、八並、新島、出口、杉山、和田、渋谷、山崎（寧）
個	8/26～27	至仏山	浅井（祐）	
沢	8/27	丹沢･大山川	鈴木（勝）	松浦、森（律）
個	8/27～30	大州・韓国岳・由布岳	山本	小宮、阿部、小野寺、鎌形、石井（文）

心　に　残　る　山　行

薬師岳(折立～室堂縦走)

記：山﨑　正夫

草加山の会に入会し、お陰様で色々な山を歩くことができました。その中で、心に残る山行と聞かれて、選ぶとなると中々難しいところです。

今回は、2013 年(平成 25)９月１２日～１６日に歩いた薬師岳を選ぶことにします。

この山行は、草加山の会創立４０周年記念・日本の高山４０座を歩く中の一座で、私がリーダーに指名されて実行したものです。

下川さんと鎌形さんが同行してくれました。

草加駅・大宮駅から上越新幹線、越後湯沢駅でほくほく線に乗り、富山駅。富山地方鉄道に乗り換え、有峰口駅下車。駅前で迎えのタクシーに乗り、折立へ。歩きは、太郎平小屋泊、薬師岳・北薬師岳を経て、スゴ〵乗越小屋泊。越中沢岳を経て、五色ヶ原山荘泊。ザラ峠を経て室堂というコースです。

同年の８月２５日から３０日にかけて、日本の高山４０座の一環で、小林リーダーの下、裏銀座を歩いて、そこから見える薬師岳の雄大な山容を見ていたので、実際にその薬師岳を歩いているという喜びもひとしおでした。

平日の山行にしたので、五色ヶ原山荘～室堂の間はさすがに人は多かったですが、その他の山行の大部分はほとんど人にも会わず静かな山行、素晴らしい景色を楽しめました。

雄大な山を縦走するという充実感を感じることができ、心に残る山行となりました。

また、五色ヶ原山荘では折立～室堂のトレイルランのイベントに遭遇し、我々が２泊してきた行程を１日で走ってきたランナーには驚きました。

また、雷鳥が２０m位飛ぶのを見たのも良い思い出となりました。

薬師岳山頂

飛び立つ雷鳥

思い出深い山行

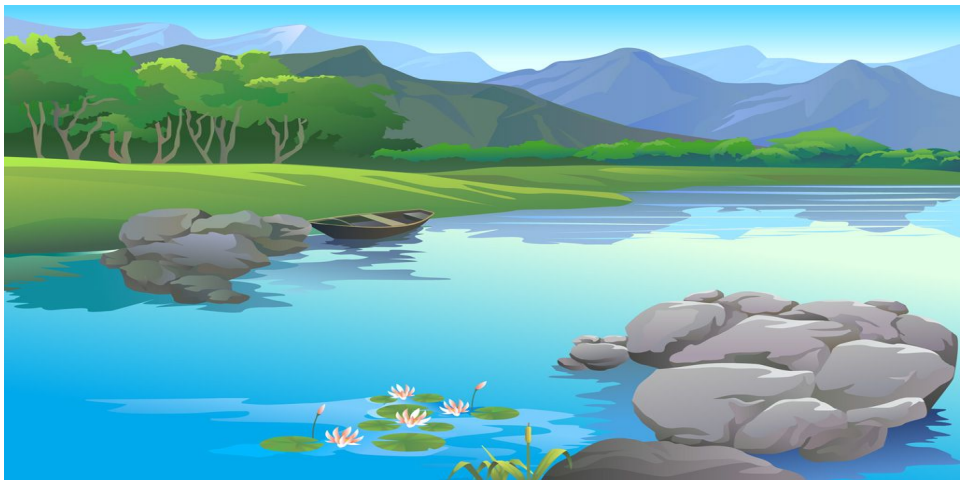
記：八並　絹代

① まだ学生の頃、涸沢で幕営し夜中から降り出した雨が翌日の昼頃やみ、さあ、登ろうと午後、北穂にアタック、3日目奥穂から前穂までアタック、4日目荷物を全部持って再度北穂から大キレットの縦走に出発したが、キレットで土砂降りの雨になり南岳の小屋に逃げ込んだ。狭い小屋は避難客でごったがえしトイレの前で寝る事になり臭いやら気持ちが悪いやらさんざんだった。5日目南岳から槍が岳、西鎌尾根を通って双六で幕営。さすがに疲れ、足の豆はつぶれて痛いやら。6日目テントの中でゆっくり休んでいたかったがリーダーの許可がもらえず三俣蓮華までピストン。7日目双六から笠が岳へ縦走し大きな岩がいっぱいの穴ケ谷を下って新穂高へやっと下山。この時の山行がきつくて忘れられない。当時は重いキスリングを持って炭水化物ばかりの食料で顔や足がむくみ疲れきった山行だった。でも毎晩行うテントでのミーティングは楽しかったなあ…..。

② 女性3人で朝日連峰の縦走を終え、「折角大阪から東北まで来たのだから最後に月山に登って帰ろう」ということになり鶴岡から8合目までバスで行き、午後4時頃から頂上を目指して歩いた。山頂は幕営禁止なのでテントを張らずにかぶって寝るつもりで鶴岡の町でメロンやおいしい食材を買い夕焼けの景色を見ながら楽しい一時。夕食を終え陽も沈み暗くなったから寝ようとテントをかぶって横になっていた。八時過ぎ、いつの間に来たのか七～八人の修行者にぐるりと囲まれ、一斉にライトを照らされ「こんな所で何をしている？小屋になぜ泊まらないのか？」と叱られた。何が起こったのかこの時ほど怖くてびっくりしたことはない。先方も我々のライトの光に何事か？と思ったのでしょう。それに音もたてず、ぐるり囲まれたことに三人共全く気付かず震えた。お金がないから小屋に泊まれない旨、話をして早朝テントを撤収することを約束して許してもらった。翌朝、山頂からのご来光も景色も素晴らしく感激した。下山後、鶴岡市郊外の湯の浜温泉に泊まって日本海を眺めながら急行列車で帰路に着いた。

③ 五月中旬、仲良しの友達四人で大台ケ原から大杉谷へ出かけた。生憎天気も悪く、二日間小雨の中を歩いた。それでも大杉谷は次々と現れる見事な滝に感激しながらの楽しい山行だった。ところが途中シャツが真っ赤に血で染まり、驚いてシャツをめくったところ蛭がおりびっくり。よくよく見ると地面や木にあっちこっちいるではないか。それからは皆、蛭と闘いながら下山。雨もあがって砂防ダムの堰堤で皆、なりふり構わず服を脱ぎ捨て蛭を払った光景は思い出すと今でも滑稽です。

★山の美しい景色に魅せられて４６年、今となっては楽しい思い出がいっぱいです。山の空気、風、景色、かわいいお花、等々から元気を貰い感謝しながら、もう少し山歩きを楽しませて下さい。



サンショウバラ&不老山(928m)

▲ 2016 年 6 月 3 日　金曜日　　記　新庄　八重
▲ L 新庄、石井(文)、関口、平野、山本
▲ 草加 6:00→北千住 6:10/6:15→代々木上原 6:49/6:53→新松田 8:08/8:25→向河原 9:00/9:15…林道番ケ平 11:10/11:25…不老山 12:00/12:30…世附峠 13:05/13:10…サンショウバラの丘 13:20…世附峠 13:30…林道分岐 14:20…柳島 15:45…駿河小山 17:00

箱根界隈に咲くサンショウバラと夕張岳の足慣らしを兼ね不老山に出掛けた。新松田から富士急バスに乗り向河原バス停で下車、身支度を整え河内川の吊り橋を渡る。茶畑、梅畑を抜け山道に入ると里山らしく直ぐに急登が待っていた。ヒノキの植林をジグザグに登っていくと、アキレス腱が伸びるような急坂も多く汗が噴き出てくる。去年の台風の影響か登山道が崩れた個所は、植林された山の脆弱さを物語っていた。標高が上がるにつれ時々頬をなでる涼風が気持ちよい。

ベンチのある番ケ平（地図上の番ケ平と異なる）に着くとお目当てのサンショウバラが初お目見え、ピンクの花弁が風に揺れていた。開けた一角からは箱根の山並みや大野山が見渡せた。さらに山頂を目指して進むと、初めて時間表示のある道標があり山頂まで 15 分とか。思ったより順調に歩けているようで、今月末の夕張岳に目処が付きそう。

平日とはいえ今まで誰にも会わなかったが、山頂では先客がサンショウバラをカメラに収めていた。明神峠から歩いてきた単独の若い女性に、この先のサンショウバラの開花状況を尋ねると、他はすでに終わっているそうだ。残念だが生土経由で下山しようと思ったが「サンショウバラの丘」は展望が素晴らしいと勧められ立ち寄ることにした。

南峰を経て世附峠まで急坂を下り登り返したサンショウバラの丘は、確かに 360 度の眺望であったが富士山は雲の中。バラの株はあれども花の姿は皆無で、すでに実をつけた株もある始末。世附峠に戻り地図上の山道を探しながら下ったが見つからない(実際はもう少し西寄りで林道になっていたと判明)。藪に入り様子をみたが戻って林道を下ることにした。

急峻な斜面はあちらこちらで大崩落の跡が痛々しく、厳しい地形の環境下にあるのが肌で感じられた。不老ノ滝を見て長い林道歩きから解放され車道に出る所で、比較的新しい別の林道が山に向かって伸びていた。古い地図上での山道入口で、私たちが上部で探した山道の終点に当たる所だが、現在は完全に山道から林道に様変わりしていた。常識だが地図は新しくないと役に立ちません。随分歩いたがゴールはまだまだ、駅までの長い車道歩きには嫌気がさした。

それにしても林道、車道歩きの 2 時間半は膝にきて痛みが出てしまった。千メートルに満たない不老山だが、結構登り甲斐があり山は高さではありませんね。

檜洞丸（1601m）

記：畑野　順

二

◆山行日：2016 年 6 月 4 日（土）
◆山行者：新島・**山崎寧・浅井裕・八並・平野（お試し）**・畑野順
◆コース：松原団地 5：30−東名道−西丹沢自然教室 8：10−ゴーラ沢出会 9：10−
天望台 10：00−檜洞丸 11：30−天望台 13：10−西丹沢自然教室 14：30

シロヤシオを見たくなり、檜洞丸に行くことにした。
駐車できるか、心配していましたが、問題なく西丹沢自然教室の少し手前に駐車することができました。もしかしたら、シロヤシロ終わっているのかな。
西丹沢自然公園で登山届出を提出して、車道を少し歩くと登山道入口がありました。
登山道に入ると新緑がとても綺麗で、森林浴の中歩きます。
なだらかな登山道で、ゴーラ沢出会までつきました。ここからは、急な階段になります。
少し汗をかきながら歩くと 1 時間ぐらいで展望台につきました。雲の上に富士山山頂が見えました。

あ～あ～　シロヤシロは、散っています。
2 月の四阿屋山の福寿草も終わっていたし、今回のシロヤシロも終わっているし、来年の課題が増えました。
ここからも急登な登山道を歩きます。やっとなだらかな、コバイケソウがいっぱいの木道になり山頂はもうすぐです。
コバイケソウが咲く時期にまた来ようかな。
11 :30 に檜洞丸につき昼食をかねて大休憩です。
檜洞丸から、犬越路に向かう周回コースもありますが、ツツジ新道を帰ります。

こんなに長い急な登りだったのと思いながら下っていき西丹沢自然教室まで帰ってきました。
残念ながら、シロヤシロは見れませんでしたが、楽しい山行で皆様ありがとうございました。

『日和田　岩トレ』

記:西尾 学

山行日:2016 年 6 月 5 日(日)

メンバー:L 松浦、長田、森律、出口、柳瀬、中川、四宮、西尾(お試し)

「あぁ…雨だなぁ…」未明の雨音に決行なのだろうか？！という疑問の中で目を覚ました。
携帯の着信メールを確認しても中止連絡もないし、天気予報では午前中の早い段階で好天になるとのことで「きっと、やるんだなぁ（笑)」と少しばかりワクワクした。

今回、お試し山行の岩トレは自分の気持ちの内に岩稜や縦走の準備という意味もあり縦走中には雨も想定され、終日の大雨でもないし色々な天候を１日で味わえると考えるとなかなか無いチャンスにやる気がでた。

松原団地駅の集合場所から日和田山の麓まで車に乗せてもらい移動。朝からの雨がまだ止まない中、駐車場で各自の装備の確認を終え準備が出来てからゲレンデへ出発！！３０分ほどで着けると聞いたので体を覚ますにはちょうど良いなぁと思いながら歩いて行くと岩が見えてきた。
先に見えたのが奥にある“男岩”、手前にある“女岩”は夫婦のような雰囲気で私を迎えてくれた。
早朝の雨のせいか女岩に取り付いている２名以外に誰もいない。男岩は貸切状態だなぁ…。
天気が良ければ人気のゲレンデでルートを確保するのも難しいと聞いていたので拍子抜けした感じもある。

岩を仰ぎながら「どうだろう…どこまで出来るかなぁ」と不安と期待に胸を膨らませてチャレンジしたい気持ちが私をかりたてた。
岩を眺めていると全員が到着して、ハーネス・カラビナ・ヘルメットを装着して準備。
諸先輩方にはその間にトップロープの支点作りに行っていただき周到な行動で、自分の事で精一杯だった私も焦らず支度ができたことに本当に感謝です。7：30 頃には雨も上がり、8：30 頃いよいよ岩を登ることになった。

ホールド、スタンス共に濡れているせいでよく滑る中、皆さんと順番に登り始める。
さすがに濡れた岩は信用できず腰が引けたが、３本目を登る頃には岩も乾いてきて楽しい岩登りになった。

諸先輩方に技術的な指導も頂いて自力では諦めてしまうところもクリアできたり、周りの方たちへの心配りなど勉強になりました。
団体行動の山行は初めてで少しづつでも直さなければいけない自分が見えてくれば良いなぁと思える山行でした。
一緒に行っていただいた皆様、ご指導してくださった先輩方、ありがとうございました。
（※記録として記載　　新版関東の岩場 p.77 の 12,13,14,15 をトップロープで。）
午前中 8:30～11:30
12 南面右ルート　Ⅳ+　スラブフェース
13 クラック　Ⅳ+　上部のクラック
午後 12:30～15:00

筑波山（887m）　ＮＯ1

記：黒澤　登美江

■日時　　2016 年 6 月 5 日（火）
■メンバーＬ小野寺、小林いつ子、上原、黒澤
■コース 松原団地 5：30 ・・・常磐道・・・神社登山口 7：10 ・・・弁慶茶屋 9：00 ・・・女体山頂上 10：00 ・・・弁慶茶屋 11：00 ・・・神社登山口 12：30

　いつものメンバー、いつもの筑波山に行ってきました。
涼しいうちにと朝早く出かけ、天気も曇りなので気持ち良く登れました。ただ　曇り空でガスっていて何も見えず、何度も行っている筑波山だが、足元しか見えない山頂に立ったのは初めてだった。この時期花もなくカンゾウが一輪咲いているだけだった。
思えば 60 数年前、小学校の遠足で筑波山に登ったのが最初でした。弁慶七戻りの岩が怖くてキャーキャー騒いだのが思い出され、何の娯楽もない青春時代に、友達と麓まで自転車で行き良く登った筑波山です。
未だケーブルカーもロープウエイも乗ったことがないので、もうちょっとしたらケーブルでもロープウエイでも行きたい、私の筑波山になると思います。

筑波山　（887m）　ＮＯ2

記：鈴木　里子

日 程 ：平成 28 年 7 月 24 日（日）
メンバー：Ｌ小野寺、黒澤、松田、上原、鈴木
コース：つつじヶ丘登山口 7：00－弁慶茶屋跡 8：00－女体山 9：00　　下山-弁慶茶屋跡 10：10－つつじヶ丘登山口 11：00－道の駅

　朝 5：30 に出発してつつじヶ丘駐車場 6：40 位に到着、梅雨の晴れ間で気温も上昇して朝から蒸し暑いです。
登山口 7：00 出発。登り始めの階段は体がきつい。息が上がってきた頃に大輪のユリの花が咲いていた。花を見ながら水分補給、一息入れ花に元気をもらって出発。
弁慶茶屋跡で休憩し、出船入船～大黒岩～山頂へと汗をぬぐいながら頑張りました。
山頂からの緑の田園風景がとても美しかった。
靴に着いた泥が岩場を滑りやすくし、緊張しながらの下山。登って来る人が増えてきた中、珍しい人たちと出会った。男女 10 人位のグループ、全員裸足なのです。
どうして裸足で！？と聞くと、健康の為です！気持ちが良いですよ！と口々に言っていた。でも靴は持っているとの事、それを聞いて他人事でもほっとした。
そして予定通り登山口に 11：00 到着。
帰りは道の駅に寄るもの楽しみの一つです。そこで地元の野菜を買い求めました。
隣にある食堂でランチ。地元では人気のお店のようで混んでいた。
豚肉がおすすめの張り紙があったので全員とんかつ定食を注文。少し時間がかかったが店員さんの愛想も良く、とんかつも美味しかったです。

花の三つ峠山(1,785m)

日　程　　平成 28 年 6 月 11 日(土)　天気晴れ　　記：石井文子
メンバー　　L.石井(文)、小野寺、中島、森、平野、新庄、村上(お試し)　計 7 名
コースタイム　南越谷 5：52＝＝西国分寺 6：32～45＝＝立川始発 6：53＝＝大月 7：48～51＝＝河口湖バス 9：05＝＝三つ峠登山口 9：40～50
三つ峠登山口 9：50――山頂(開運山)12：15～12：35――御巣鷹山 13：10――木無山 13 :40――鉄塔 14 :50――母の白滝 15 :40――バス停河口湖郵便局 16 :20～16：55――河口湖駅 17：10 快速 17：27＝＝立川 19：22～24＝＝西国分寺 19：36＝＝南越谷 20：16
出会った花々：アツモリソウ、カモメラン、アヤメ、サンショウバラ、ハクウンボク、クサタチバナ、フデリンドウ、トリガタハンショウズル、マイズルソウ、フタリシズカ、サラサドウダン、ヤマツツジ、オダマキ、その他

倉見山登山で「クマガイソウ」という高山植物と出会い、北側の三つ峠山には「アツモリソウ」と言う花があり 6 月に花が咲くらしいという事で会いに行ってきました。
源氏（熊谷直実）と平家（平敦盛）の因縁がここにもあったのかと思いました。
お試し山行の村上さんに登山ルートの説明をしました。

6 月 8 日に梅雨入り宣言があり、予報では雨マークでしたが、当日は晴天、蒸し暑い登山道をゆっくりあるいているとマムシがひなたぼっこ、だらだらとした登りで山頂の開運山には 12：05 到着、富士山を目当ての登山者が沢山いました。三つ峠二つ目の御巣鷹山を目指して歩いていたら新庄さんが見たかったカモメランが登山道の側に沢山咲いていました。色はうす紫と白がありかわいい花でした。しばらく歩いていると柵がめぐらせてありその中でも上部も鉄の柵で囲まれ枯れ木が周りを囲んでいるのが 4～5 か所ありなにかなあと思ったら一年前から会いたかったアツモリソウの花でした。紫色の袋の形をした大きな花です。三つ峠三つ目の木無山にあるかもと期待しましたが、頑丈な柵に囲まれていた中に花一輪だけでまわりは笹が沢山生い茂っていました。「盗掘でアツモリソウが減ってしまった」と、登山口で出会った写真家のおじさんが言っていた事を実感しました。

母の白滝への下山道は、勾配があり急な階段をおりていきます。滝は２段になっていって立派な赤い鳥居と祠がありました。バス停までは、緩やかな沢沿いの道を下ります。帰りが遅くなりましたが、参加者の皆さん楽しんでいただけたでしょうか、急な下りお疲れ様でした。

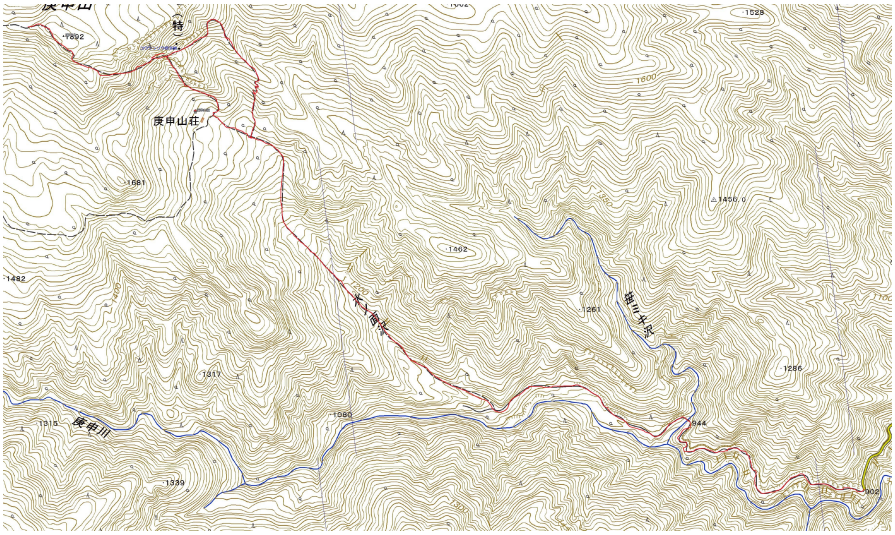
◆山行者：L 鈴木廣・阿部・染谷・山本・兼堀善・宮子・杉山・澁谷・森花・

庚申山

記：森　律子

日　　時　2016 年 6 月 11 日
メンバー　L 森（律）　染谷、畑野仁、山崎正
コース　　南越谷 5:31→鳩の巣 8:14→大根ノ山ノ神 9:10→大ダワ 10:11→川苔山 11:32→百尋の滝 13:15→川苔橋バス停 14：30

勝手に作った「干支の名前が入った山に登ろう」企画で、今年のお題は庚申山、せっかく登るのだったらとても珍しい絶滅危惧種の「コウシンソウ」の見れるシーズンを選んで計画しました。　地図には「経験者向けの小山めぐりコース」の途中にあるそうなので、そちらのコースを歩いていると血だらけの下山者に遭遇！なんでもコウシンソウを見ているうちに滑落したそうな・・そんな危ない場所に咲いているのか・・と思いながら群生地に到着、人差し指ほどの小さい花がい～ぱい咲いていました。この小さい花は食虫植物だそうですが、こんな小ささではコバエぐらいしか食虫できないのかな・・なんて考えます。また、絶滅危惧種で保護されているおかげで、「山と現地図」にある登り 2 時間のハードなお山めぐりコースに記載されている群生地以外にも庚申山荘から登る楽なコース途中にも群生地があり、しかも滑落しそうな危険な場所ではないので、もしコウシンソウを見に行きたい方がいたらそちらの方がおすすめです。



金峰山・瑞牆山

記：三浦藤博

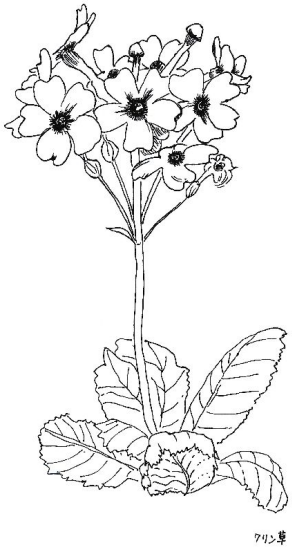
◆山行日： 2016 年 6 月 11～12 日
◆メンバー：L 山口(裕)、新島、大門、山崎(寧)、西尾、三浦、会員外 1 名
◆コース：
【1 日目】みずがき山自然公園 08:29→10:12 富士見平小屋(テント幕営)11:03→11:46 大日小屋→12:10 大日岩→13:08 砂払ノ頭→13:32 千代の吹上→13:39 金峰山小屋分岐→14:09 五丈石→14:14 金峰山→14:35 五丈石 14:40→14:55 金峰山小屋 15:01→15:16 金峰山小屋分岐→15:21 千代の吹上→15:32 砂払ノ頭→16:20 大日岩→16:38 大日小屋→17:19 富士見平小屋（泊）
【2 日目】 富士見平小屋 06:30→06:57 桃太郎岩→07:56 大ヤスリ岩→8:14 瑞牆山 09:05→10:18 不動滝 10:24→11:14 林道小川山線終点→11:37 みずがき山自然公園

６月の第２日曜日は金峰山の開山祭。当初、自然公園駐車場から黒森コースで瑞牆山を越えて富士見平小屋に行く予定でしたが、金峰山渋滞を考慮し富士見平小屋にテントを設営後ピストンで金峰山へ登ることになりました。個人としては今シーズン初のテント泊です。ザックは重く感じ、自分の体重も昨年から５キロ増のため富士見平小屋までの上りはハードでした。

富士見平小屋でテントを設営後、軽身で金峰山へ花崗岩ドームの大日岩付近から（標高 2000ｍ付近）明るいピンクのシャクナゲが満開で我々を迎えてくれました。8 年前に山口さんと大弛峠からのコースで登っていますが、富士見平小屋からは初めてで思いのほか長く感じました。山頂は残念ながらガスの中で展望はゼロ。そんな状況の中、山口さんが五丈岩登りにアタック。少し時間がかかっていましたが、無事、岩の上に立ちました。帰りに金峰山小屋へ立寄り、宿泊４０人と聞きビックリ。１日目に金峰山を選択したことは正解でした。
富士見平小屋に戻るとテント場は１００張中７０張位あり大賑わい。小屋泊まりも５０人。
これだけの人数がいるのにもかかわらずトイレが男女１個ずつしかなく、トイレ渋滞で大変な思いをしました。

２日目は、出発前にテント場近くに群生している九輪草（くりんそう）を、西尾さんの案内で見に行きます。
なんと九輪草も満開、初めて九輪草の群落を見て感動で～す！
瑞牆山の中盤からは岩場の連続となり、前日より重くなったザックを背負い息が上がります。山頂からは晴天のおかげで富士山、八ヶ岳連峰、南アルプス、浅間山、そして前日登った金峰山が良く見えました。山頂での展望を十分満喫し、不動滝を目指し下山開始です。不動滝までは急な下りが続きますが、奇岩が沢山あり、人も少なく非常に歩きやすかったです。不動滝は、

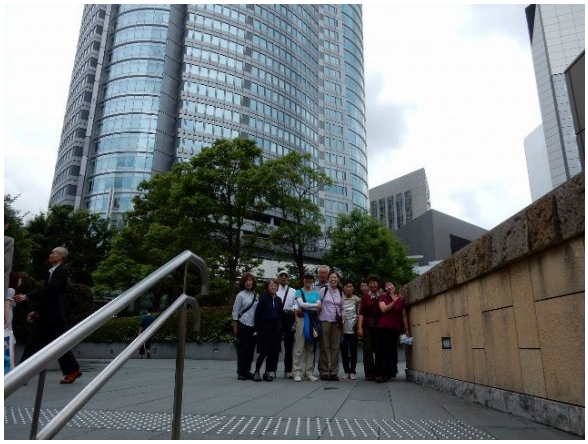
水量が少ないものの見事な滝でした。滝から下は沢沿い歩きとなり、瑞牆山荘からのコースとは違った雰囲気を楽しむことができました。下山後は、ラジウム温泉・増冨の湯に立寄り汗を流しました。
金峰山・瑞牆山といえば日帰りで登る山だと思っていましたが、テント泊でも十分楽しめる山でした。次は、大日岩～八丁平～小川山の



東京散歩「麻布～六本木～赤坂～日本高度水準原点」を歩く

1、　期日：２０１６年6月１６日
2、　メンバー：Ｌ松浦、松田、山本、小野寺、木原、上原、鎌形、平野、兼堀恵美子
　　小林真一、小林いつ子、中川、杉山
3、　散歩コースの報告

地下鉄大江戸線に乗り、麻布の駅で降りる。地下から出た駅前は「麻布十番」の通りである。朝十時ごろなのでお店も完全には開いていないが、洒落た店が並ぶ。商店街を過ぎると、青山に向かう大通りを横切り、芋洗坂に入る。穏やかな坂を登り切ると六本木の中心の交差点に出るが、過って喫茶店「アマンド」として待合わせ場所であった店も、今やケーキ屋さんになっている。私も会社が六本木交差点の近くにあったので、十年ほど六本木に通っていたので懐かしいが、町の姿は全く変わってしまった。
先ずは六本木ヒルズの高層ビルに行き、エレッベーターで展望台に上がり、眼下に東京タワーをみて、展望階をぐるりと回り、東京の町を見下ろす。六本木の町の裏道を歩き、表通りと異なる六本木を見てもらう。俳優座ビルの脇を通り東京ミッドタウンに入る。中庭の喫茶店のロビーでコーヒを飲み、お菓子を食べ一休みする。



六本木ヒルズにて

日本の高度水準点前にて

六本木ヒルズ展望台

東京ミッドタウン中庭

１１時３０分、乃木坂に向かい「乃木神社」を参拝し、隣の乃木大将の自宅を見学する。乃大将が奥様と共に、自決された部屋も外から見ることも出来る。乃木大将の自宅の前には六本木から青山に向かう通りがあり、少し歩くと青山通りにぶつかり、目の前は皇太子の御住いである東宮御所である。これより青山通りを赤坂に向かい、ゆっくりと下降する。途中には全国の工芸品を販売展示している「伝統工芸館」があり、素晴らしい作品が並ん

でいるのを見学する。しばらく行くと昭和の初めに大蔵大臣として活躍した「高橋是清」の屋敷跡である記念公園に出会う。赤坂の繁華街に入る前には「豊川稲荷神社」がある。過ってこの稲荷は、赤坂に住んでいた大岡越前守の屋敷内に在ったが、大岡越前守が大名となり転移したので、豊川稲荷神社この地に移転した。
１３時４０分、赤坂「一ツ木通り」に入り中頃の食堂で昼食をとる。一ツ木通りを暫く行くと、左に道が開け赤坂日枝神社の大きな鳥居が目に入る。鳥居をくぐり、稲荷神社の鳥居が無数にある赤いトンネルの様な階段を上り詰めると、日枝神社の境内にはいる。さすがに菊のご紋章の付いた垂れ幕の下がった本殿は立派なものである。

日枝神社の正面大階段を下り、国会議事堂に向かう。坂を上り詰めると議事堂の裏に出る。これより議事堂の正面前にある公園内の、日本の高度水準原点に向かう。この公園は過って桜田門で水戸の浪士に襲われた、井伊大老の屋敷跡である。この公園には過っては憲政会館もあったが、明治時代から陸軍参謀本部があり、その下に日本の地図を作った、陸地測量部も在った。この為に日本の高度水準原点も此処に決められたのであろう。水準原点は小さな石の建物の中にあり、見る事は出来ない。関東大震災と東日本大震災で、二度水準原点の高さは変更になっている。この後は内堀通りを散策し、九段坂下より地下鉄半蔵門線に乗り草加に帰る。楽しい一日であった。

東京散歩「麻布―六本木―赤坂―日本の海抜高さの水準地―九段下」平野祥子

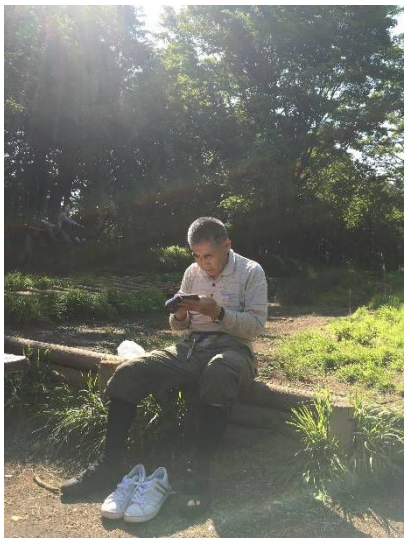
初めて降り立った麻布十番駅（大江戸線）から出発しました。芋洗坂を歩き六本木ヒルズ展望台に一気に上がって眼下の東京タワー、青山墓地、東宮御所、皇居と緑に囲まれた名所を一周しながら見学。六本木界隈にはオシャレで新しい建物が沢山ある。
ヒルズ前の六本木通りの上には高速道路も走っている賑やかな通りです。メイン通りはよく歩くのですが、中通りは表とは違う店や劇場があり、どんな方々が訪れるのかなあと…？東京ミッドタウンで一休みして乃木神社へ、青山伝統工芸館は日本各地の手仕事で作られた作品が展示され販売されていた。高橋是清～豊川稲荷神社と歩く。
　松浦さんおすすめの赤坂にある店でランチする。私はこの店が気になり松浦さんに尋ねたところ、初めての店で食事をしようと入り、食べ終わって支払いをするときに初めて財布がないことに気付き、住所名前を言って店の方が了解してくれた。後に支払いに行った時、今度は大勢できますと。お互いの信用がないとこうはいかない。人と人のつながりは凄い。大事にしたいエピソードでした。赤坂日枝神社～国会議事堂～日本の水準地をまわり緑が濃くなった皇居の内堀通りをのんびりと歩き九段下から電車で帰宅しました。後日、赤坂からミッドタウンまで再び散歩してきました。高橋是清記念公園の紫陽花がとてもきれいだったので公園内も歩いてみました。ここは是清の邸宅跡地です。きっと秋の紅葉の時もいいですよ。松浦さん、皆さん有難うございました。楽しい一日でした。

勘七の沢

記：柳瀬　真由美

2016 年 6 月 18 日：L 沼田、松浦、山崎、鎌形、柳瀬、西尾

車２台でそれぞれ朝５時前に出発し、海老名サービスエリアに向かい合流。
7 時半前には表丹沢県民の森駐車場に到着し、ぎりぎり車２台停められた。そこで沢登用の装備を準備する。しばらく登山道を歩くと川が見えた。登山道から逸れて川の方へ歩く。そうか、今日は川を登るんだもんなあ、と、心の中で呑気に思いつつ川を歩いて行くと滝が見えてきた。と思ったら、堰提という人工的な壁だった。それを登ってさらに進むと、F１と書かれた小さな看板があった。沼田さんが、ここが一番難しいよ、と言った。沼田さんがトップなので当たり前だが何も無しで登って行った。
腕を見ると力が入っているのがわかる。滝の上まで上がり切り歓声と拍手。ロープを下してもらう。８の字でロープの輪っかを作り、途中でカラビナをかけ替えるんだよ、と松浦さんたちに教わる。先に山崎さんが行く。岩が滑るようで何度か足を踏み外すが、順調に上まで行ってしまった。私の番。やっぱり滑る。３回くらい足を踏み外して上手く行かない。ロープで確保されていなければ水の中へ落っこちてるって事だ。トップで行く人って信じられない。あれが出来なきゃいけないなんて無理だ、と足を踏み外しながら心の中で思っていた。松浦さんが下で叫んでいる。もうちょっと落ち着いて！そうだった、落ち着いて‥滑らず岩に足が乗った。その後も怖い。滑りそうで怖い。なかなか次の一歩が踏み出せない。ここから滑ったら岩にぶつかって痛そう。こわごわ進んでやっと滝の上へ。何とか登ることができてほっとする。その後も何度も滝や崖を登ったが、最後の滝までの記憶があまり残っていない。無我夢中だったからだと思う。Ｆ５と書かれた看板が見えた。これが最後の滝。見上げるととても高く見えて恐ろしい。しかし登るしかないのだ。こういう状況は普段の生活にはほとんど登場することがない。恐ろしいのにやるしかない。これは以前芝居をやっていた時の舞台に出る直前と似ているかもしれない。毎回何でこんな恐ろしいことしてるんだろうと自問自答し震えながら袖で出番を待っているわけだから。ただし舞台ではケガしないし死なないが崖では落ちてケガするかもしれない。高所恐怖症だし（ならやめろ）。こういうドキドキして心臓に悪いような事を求める気持ちが人間にはあるんでしょうね。怖くて楽しい貴重な体験をさせてくれた皆さま本当にありがとうございました。



最後に、写真を撮るのが下手な私が珍しくとても良い写真が撮れている事を発見。
光の中の松浦さん。あまりに良い写真なので、どうぞ遺影にお使いくださいと言おうと思ったが、崖でそっと背中を押されそうなので言わないでおきました。

西丹沢　河内川水系　火打沢(ヒイチサワ)

2016.06.19　　L:長田 一樹　メンバーUさん(会員外)

草加5：30→7：50駐車場8：10→入渓8：35→10：45大休止昼食11：15→ツメ開始13：05→13：25登山道13：30→14：10駐車場

この前行ったボウズクリの隣のヒイチ沢が気になっていた時に
クライミング仲間のUさんから「沢登りに連れて行って下さい！」と頼まれたので、
そこで良ければと言うと是非にとの事なので急遽行ってきました。

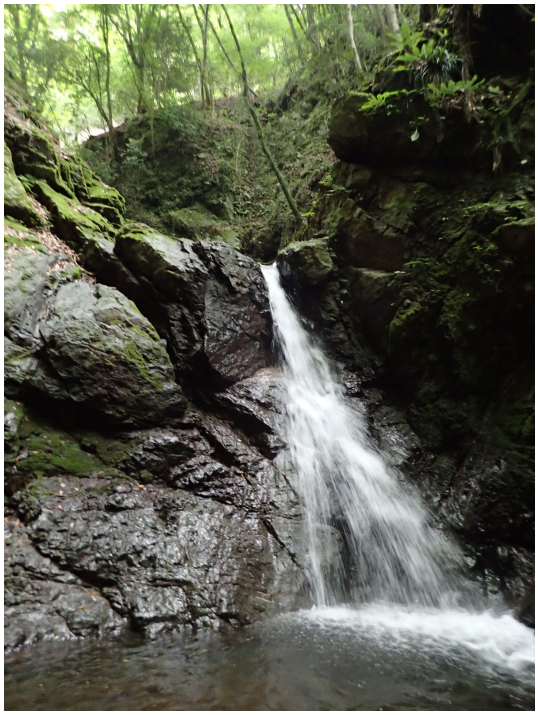
車置いて吊橋渡ろうとした所で地形図と東京起点120の遡行図を車に忘れた事に気が付く（結果コレが功を奏す！！）
幸いUさんが地形図と遡行図（Webからdlした物）を持っていたので取りに戻らずに入渓して遡行開始！
一個目の堰堤は右岸巻き、すぐに両門状に滝が出合っているF1:10mが現れる。左は2条の滝で水量少な目、本流は10mちょっとで直登は無理そう...ブログとかでは左手に残地ロープありとあったが無いし、そもそも余り下調べするのは面白くないかなと思いしていなかったなぁと反省...滝付近の左右壁共に悪そう、少し戻って左岸を見ると赤テープ（笑）しかも新しい踏み跡(ˆωˆ;トレースしつつ高巻く
後日この踏み跡がUさんの知り合いの物だったと判明！
高巻きから降りて6mナメに2段3mを登ると4段40m登場!!1段目は突破できそうだけど2段目以降判らないし途中から巻けそうには見えないので大人しく左岸高巻きを選んだが正面に見えるスラブ状か少し戻ってザレ場を上がるか悩んで、結局Uさんがフェルトに慣れていないのでザレを登り高巻きして上部に行くとまた赤テープ！かなり手前から巻いているみたいだ!?そのまま進むと彼方此方に赤テープが!?
テープ沿いに行くとゴルジュ全部高巻く勢いなので適当な所でゴルジュへとトラバース気味に降りる。ここで足場が崩れてUさんが蝉状態になる。戻ってバイル渡して急場を凌いで何とか無事ゴルジュへ突入！

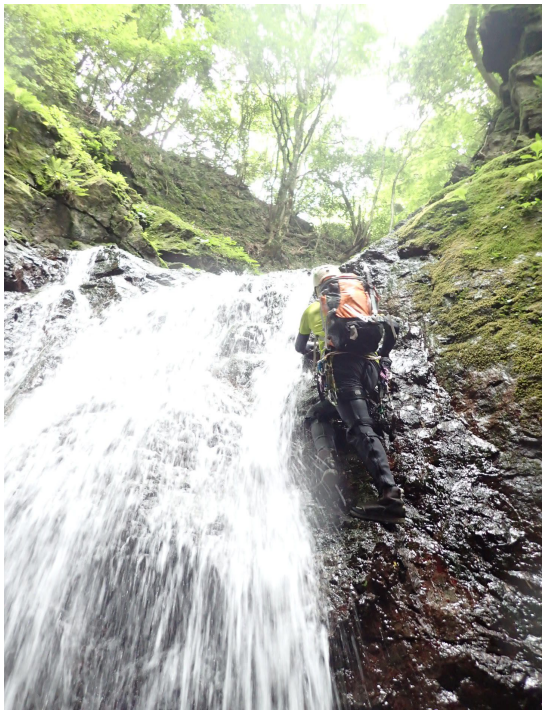
反省点：沢登初心者なので懸垂下降を止めたが、ここは腐葉土で足場が不安定だったので単独での懸垂が不安なら振り分けで一緒に懸垂下降にするべきだった。

ゴルジュ突入開始！
3m:CSは適当に、12mは登れないので右岸側にある残地ロープを補助に登る、古いので補助程度で登ってとUさんに声をかけるが有れば全力で掴みたくなるようで少し苦労している、それでもリードで10bを登るクライミング能力はあるので無事完登！またも赤テープが出てくるが、それに釣られると10m滝やゴルジュ全体を巻く勢いなので途中で降りる。

10m 滝の登攀用意しながら滝を観察する。良く見てもプロテクション判らないので取り合えず滝左側を登り出すと中盤くらいでカムをセット出来そうなクラックがあった！リンクカムでプロテクション取ると直ぐ上に錆びて岩と同化したハーケンが有る。考える事は一緒だなとニヤリとして、大昔の先人に感謝しつつこれにもプロテクション取って上部落ち口へ、落ち口はホールド少なくなるので慎重に足場を決めて抜ける体感Ⅲ+
リンクカムとボールナッツで終了点作ってＵさん引き上げたら、ゴルジュのど真ん中へ!!
丹沢らしくない渓相にテンションが高くなる!!!奥へと進みゴルジュ最深部の入り口 5m は突っ張りでと思ったが流れの中に手を突っ込むとクラックがありハンドジャムにフットジャムもバッチリ！！U さんには厳しそうなので上部からロープ出して肩絡み確保、東京起点だとここから右岸高巻きして逃げるようだが持ってる遡行図は直登！なら行くしかないと倒木だらけの 3m を超え右折して 6m の滝！出だしは倒木で補助出来るので、ボルダリングチックなムーブで登り落ち口付近でシャワークライミングをすると満足感が湧き上がって来る！U さんには上部からお助けスリングで対処！体感Ⅳ-
少し行くとすぐに 4m が現れる、左の左上しているクラック沿いに行けば楽そうだが流芯というか落ち口が狭くなっていてハングしている滝の右側上部にガバっぽいのが見える！取り合えず左から取り付いて右にトラバースして落ち口まで来たのだが、左壁縦カチのホールドしか無くなりスタンスも無し（汗）外傾スタンスで誤魔化しながら右ガバを一気に取りに行きたいが、右足が出せない状態で右手を伸ばすとバランス崩して水流に押され浅い滝壺に落ちそう（汗）そうこうしてると水流が右半身に掛かって来て、そのままでも下に落とされそう（涙）ジッとしていたら水で体温奪われて来たので一度戻って仕切り直して、水流跨ぐようにして右足を出すと安定した！右のガバ取ってハングした右から強引に行こうとしたら左手で掴んだ奥のカチガバがグラッとして剥れそう（涙）落ちたら痛いよなぁと思いつつハング越え諦めて落ち口突破に切り替える。左手離して左足を強引に上げて乗り込んでガバから切り替えた右手でプッシュ！

アドレナリン全開で水流跨いで乗っ越して何とか突破。ワンムーブだけ体感Ⅴ+U さんには上部からロープ出しました。上部でカチガバ確認したら剥れましたε＝（´∀｀；）



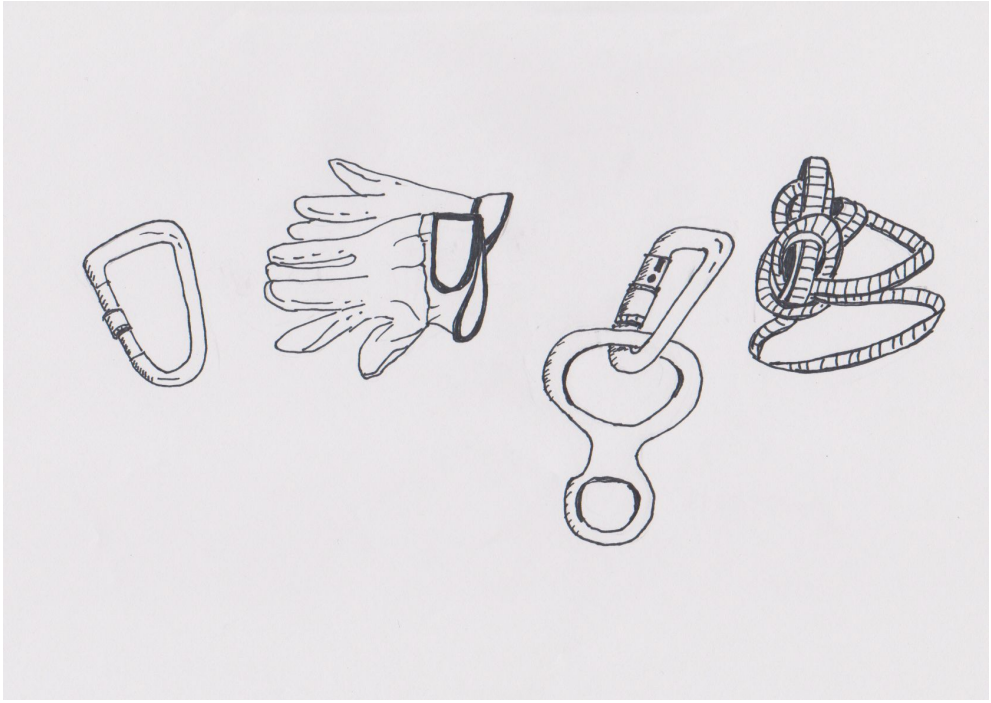


ここで前半戦終了！ナメ滝と河原が現れて癒やしの沢に変わった所で、大休止して昼食(ˆ ωˆ)
少し寒いのでカップ天ぷらそばとオニギリを食べる！デザートはU さんから貰った生アンズ！
お腹一杯になって動きたく無くなる前に後半戦開始！！

ナメ滝小滝を何個か超えると右に大岩の乗る 5m 滝が現れる！右側からサックリ登って通過後、直ぐに二俣！ここは右側のトイ状 2m を行く、しばらくナメ滝と小滝に癒やされながら遡行していくと段々流れも細くなり幅も狭くなる、この先に 10～15m 級の滝が三個もあるのかな？と思いながら小滝を乗り越えて行くと右に 10m 左に 20m 真ん中は枯れ沢の三俣の様な所に出る、丁度陽が差し込んで来ていて西丹沢とは思えない光景に感心するが、これから登る 10m 滝の事で頭が一杯になる。
10m 滝を観察すると登れそうだけどシャワークライミング必須、悩んでいても仕方ないのでロープ結んで登り出す。右のバンドから滝右側を選んで行くと出だしはスタンスも安定して登り易いのだが兎に角シャワークライミングでずぶ濡れで視界が妨げられる(怖）右は途中でホールド無くなるので滝中心へ左上しながら登る、途中 2 箇所カムとボールナッツでプロテクション取って突破！寒さ核心しかも一個プロテクション外れるしで体感Ⅳ級!!
登って立ち木で終了点作成してU さん引き上げて、3 段 10ｍはフリーで突破!!上流に行くほど段々狭くなる渓に本当に最後の 10ｍ滝あるんかと不安になる頃に出ました！見ると又シャワークライミング必須（涙）ココまで来たら巻くとか考えられないので直登！！
この滝は、それ程難しくないのでフリーで登ったけど落ちたら死ぬので体感Ⅲ+～Ⅳ
Uさんには上からロープ出しました！
この先に危ない滝は無さそうだし勉強の為、コンパスの使い方や地形図の見方等を話ながらU さん先行で歩いてもらう。2 段 6m は適当に 5m も適当で記憶無し、ボサッてくる辺りで左岸側注意深く見て上がれそうな所で相談して沢から離脱する。藪コギ無しで 20 分程で登山道復帰！
装備解除して靴履き替えてホッとして水分補給したら下山開始。下山中に「装備は帰ったら直ぐに全部洗った方が良いよぉー」と初心者のU さんにアドバイスすると「何故ですか？」との

返答に「放置すると苔っぽい生臭い臭いがするから」と言うと自分の身体を必死に嗅いでいた（笑）小一時間で駐車場へ着き本格的に装備解除して車に乗り込む、お風呂は山北駅近くのさくらの湯へ行って、ご飯は伊勢原の麻釉で私はフライ盛り合わせ定食にアジフライトッピング！運転はＵさんなので生ビールを頂きました!!　Ｕさんは焼肉丼に鶏唐揚げ追加注文して、お互い苦しいと言いつつ(笑)お腹一杯食べて帰宅！東名の横浜町田渋滞回避の試しで圏央道～中央使ってみました。調布で渋滞していましたが厚木西からは２時間弱で草加に 20:10 着でしたので若干高くなるのを覚悟であれば有りだと思います。

東京起点120には何度か遡行図でやられていますが今回は酷かったです。帰宅後に良く参考にしている沢登ブログの遡行図と照らし合わせて見ると美味しいゴルジュ後半を巻いてしまっている上に後半の滝は数も全然合っていない、支沢の記載も有ったり無かったり、恐らくコレを書いた遡行者は殆どの滝を巻いているのでは無いかと思います。ボウズクリが２級でこちらが２級下はありえないです。こちらも大滝の高巻きに、やろうと思えば滝の直登多数！ゴルジュにナメ滝とトイ状滝に思いの外深い滝壺とあらゆる要素が満載で水も綺麗！それに新しい踏み跡はありましたが誰とも合わず、好きなだけ自分達だけで滝の登攀ルートや巻き道を考えたりと自分達なりの遡行出来て面白かったです。
馬返しまで帰ってきたら、雲が出てきて富士山が隠れてきました。
出発から６時間かかり、いこいの森まで帰ってきました。
けっこう疲れ、三ッ峠グリーンセンターでお風呂に入り帰ってきました。



入笠山（1955m）

公開バスハイク１班

記：畑野　仁美

◆山行日：2016 年 6 月 19 日（日）
◆山行者：L 染谷・ SL 畑野仁・平野・田島・一般 6 名
◆コース：　沢入駐車場～入笠湿原～花畑～入笠山～首切登山口～入笠湿原～沢入駐車場

出発時はお天気で富士山も見えましたが甲府を過ぎたころから空がどんよりしてきました。
南アルプスも見えません、入笠山も山頂付近は雲の中のようでちょっと残念。

駐車場に着いて一般の方と合流し準備運動をして出発しました。皆さん経験豊富のようです。
今にも降りそうな中歩きます、でも暑いだろうと覚悟していたのがチョット助かった気分です
1 時間ほどで湿原に着きました、鹿除けのゲートをくぐります。
レンゲツツジが霧の中で鮮やかに見えます。トイレ休憩を済ませて入笠山の登り口のお花畑へ向かう、ここも霧で何も見えませんがちょっぴり幻想的に感じます。
集合写真を撮りここもゲートをくぐりジグザグにお花畑を登る、お目当てのスズランが見ることが出来ました、可愛い花がまだ少し残っていて良かったです。それにしても渋滞で山頂まで何度も立ち止まることになりました。
山頂に着いても何も見えず、ポツポツきたようで急ぎその場でシートを広げスープを作る準備にかかった。あわただしい感じだったけど何とかみんな食べ終わったころに本格的に雨が降り始めた、大慌てで片づけ写真を撮るため看板前に集まる。私たちはまだこの場所まで来ていなかったのだった。
今回は天気が良くなかったので景色は楽しんでもらえなかったけれどスズランやクリンソウなどのお花を楽しんでもらえたのではないでしょうか。

入笠山

一般バスハイク（２班）

記：宮地敬介

■ 日　　程　平成 28 年 6 月 19 日
■ 場　　所　入笠山(1955m)　長野県伊那市、諏訪郡富士見町
■ メンバー　２班 L 宮地敬介，SL 浅井祐子，杉山清美，畑野順二，一般参加者 7 名

２班は他の班の先頭切って沢入り登山口を出発したが、私リーダのいきなりのハイペースで一般参加者のペースを乱すこととなってしまった。思い返すに初めてのリーダとしての気負いがあったのかもしれない。いずれにしてもサブリーダの祐子さんからペースが速いとの指摘で我に返ることとなった。この後は、少し後ろを気にしつつ、またペースを抑えながら歩くことにして、休憩も多く取り入れたが、中々全員のペースに気を配ることが難しいということを感じられた。

入笠山は花の名山として有名だが、5 月に下見で訪れた時は、その時期ではなかったようだ。今回は九輪草、馬の足形、花畑には気の早い黄菅(キスゲ)、艶やかな蓮華躑躅（れんげつつじ）　そして鈴蘭。紅、黄、白と色も様々、花の山の花の時期である。

鹿の食害から守るため、保護策の中に咲いた鈴蘭群はその可憐さを木道の至る所で見ることができた。やはり 6 月の入笠山は人に勧めるにも十分すぎる価値がありそうだ。

花畑を過ぎ、少し登ると、もう山頂である。昼食は祐子さん特製のボルシチ風クリスタルスープ。北海道土産のアスパラあり、順二さん自家製のオニオンありで体と心に染み込む。夏だから冷静スープの方がよいのではと杉山さんにコメントした自分の未熟さが恥ずかしくもあったが、11 人分をピッタリに作る名シェフの手際の良さに感心させられているうちにすっかり吹き飛んでしまった。

食事が終わった頃を見越していた様に、小雨が落ちてきたが、合羽を着るほどではなく、また下山も支障なく、順調のうちに沢入り登山口へ戻ってこれた。（ホッ！）

班のリーダは初めての経験であったが、班内会員の支援もあり成功裡に勤めることができた。班内会員(祐子さん、杉山さん、順二さん)の皆様には感謝感謝です。

帰りに寄った温泉は露天風呂も広く、熱った体をクールダウンするのにはもってこいで、道の駅で買ったプチトマトも甘く新鮮であった。やっぱり道の駅はいいですね。美味しいものがたくさんあります。

祐子さん、杉山さん、順二さんありがとうございました。

入笠山（公開バスハイク）3 班

記：新島和子

★メンバー　L 石井美樹　S 井口宮子、小林いつ子、中川水紗英、新島和子
（一般参加）前田育広、原浩三、原恵子、石塚恵津子、染谷みやじ、黒田たみえ

6 月 19 日、当日の天気予報は晴れ。すずらんの群生地がとても楽しみ・・
しかし、予報ははずれ少し雲のかかった涼しい中での出発となりました。
一般参加の方々、ご夫婦一組を含む 6 名さま。皆さん健脚で今までの登山経験などおしゃべりをしながら頂上を目指します。

なにより話題になったのは、ご参加いただいた「染谷みやじ」さん・・あれっ！山の会の人だったかしら・・そうなんです実行委員の染谷さん、宮地さんがドッキングしたお名前だったんです。ご本人も驚かれていました。そんなこんなで和やかな空気の中、すずらんの群生地へどことなくすずらんの香りがしたような・・頂上直下の急登をがんばって 360℃のパノラマへ残念ながら雲に隠れた八ヶ岳、南アルプス、時々顔をのぞかせてくれました。
草加山の会、恒例の温かいスープでのおもてなし。皆さん、本当に喜んでくださいました。
今回参加してくださった一般の方々、原さんご夫婦とても仲良しで奥さまが疲れてくるとご主人がしっかりフォローされいてました。石塚さん染谷さん、職場のお仲間で一緒に山に行くことが多いとか。石塚さんが昨年のお中道に参加されて染谷さんをお誘いして今回お二人で参加とのことでした。前田さん、寡黙な方で山にはかなり慣れてらっしゃるとお見受けしました。控えめで笑顔が素敵でした。黒田さん、おひとりで参加でしたが、とても明るくチャーミングな方でした。何より皆さん健脚でトラブルもなく私自身がとても楽しい山行でした。委員長の宮子さんはじめ、実行委員の皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。

入笠山（公開バスハイク）４班

記：柳瀬　真由美

★メンバー　Ｌ兼堀善和　ＳＬ、小野寺英子、和田勇、柳瀬真由美、出口栄子
（一般参加）八重樫重男、木戸口康子、小林とし子、山崎京子、立澤芳子

草加山の会に入って初めての公開バスハイクに参加しました。いつもの松原団地の集合場所に立派なマイクロバスがとまっていて、一般参加の方々も続々集まり時間通りに出発。私は同じ班の出口さんのお隣に座らせてもらいました。寝不足だった為出発早々爆睡してしまい、夢の中で出口さんの「毎週山へ行ってはだめだ、家庭かあなたの体のどちらかが壊れるよ‥」というアドバイスが呪文のように繰り返され、目覚めたときには入笠山の駐車場に到着していました。天気は曇りで霧が出ている。私の後ろには山崎さん（山ちゃん）、立澤さん（たっち）が続いて歩いていました。そこから山ちゃんとたっちのおかげで、私は何度となく爆笑しながら歩くことになるのです。一番印象に残るシーンが、山ちゃんがつまづいて足が攣りそうになった時です。後方にいた英子さんがおもむろにザックの中からゴムチューブを取り出し、山ちゃんの足の付け根に巻き付けました。戸惑う山ちゃん。けれど英子さんが高らかに宣言しました。「今から痛いくらいギュッと締めます。２０数えてください。**はい！**」もう山ちゃんに選択肢はありません。心細い面持で、いーち、にーと数え始め、班のメンバーも自然に全員声を揃えて２０まで数えました。霧の入笠山で謎のカウントアップが響き渡る。そしてチューブを外すと‥山ちゃんの足は直っていたのです。すごい！と感動していると、兼堀さんが、これが山のナース小野寺だよ、と。山のナースはこちらを見てニッコリと微笑んだのでした。私は眩しすぎて目をそらしてしまいました。そこからは霧の中で幻想的に咲く花々を見たり、山ちゃんとたっちの可笑しな話で息が出来ないくらい笑いながら山頂へ到着し、英子さんの用意してくれたきのこスープを食べました。すっごく美味しかった！帰りのバスでは渋滞に巻き込まれてしまいましたが、ビンゴ大会があったり後ろの席のおじさま方のトイレにまつわる騒動などで、飽きることなく過ごすことができ、このような楽しいバスハイクを企画してくださった実行委員の皆さま本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました！

「2016 年　入笠山公開バスハイク（5 班）に参加して」

記　浅井昭光

5 班メンバーＬ浅井（昭)、ＳＬ森（律)、澁谷、兼堀（恵)、山崎（寧)、

梅雨に入ってのバスハイク、天気が心配されていたが、曇天の下出発しました。
入笠山は、この時期すずらんの群生が見られるはずだったのですが、少し遅かったようでした。しかしながら他の花々が咲いていて、皆さんの心を和ませ楽しむことが出来ました。
コースは、バスを降りて山頂までのピストンに周回コース。山頂では恒例のスープで、一般の方々をもてなし喜んで頂きましたが、残念ながらその辺りから小雨が降ってきて慌ただしく退散を余儀なくされました。
行程は、バスハイクとして 4 時間ぐらいで丁度よかったと思います。やはり天気が良かったらもっとゆっくりしてたかもしれませんが（残念！)。
5 班のメンバーは、会員の私を除いて女性が多く、色々な話に花を咲かせていました。一般の方は会員の知人がいたり、また若い夫婦の参加者もいましたが、あまりお邪魔をすることが出来なかったのが心残りでした。帰りのバスは、中央道の渋滞で最後の時間当てゲームでは、折半詰まる盛り上がりがなくなり残念に思いました。
今回、公開ハイクの実行委員会長の宮子さんをはじめ実行委員のメンバーの方々、総会を終えてからの 2 カ月半大変お疲れ様でした。大勢の一般の方々を迎えての企画、
準備は毎年行われる事とは言え大変な事ですね。ほんとうにご苦労様でした。

入笠山（1.955m）[下見]

記：井口　宮子

■日時　　2016 年 5 月 21 日（土）
■メンバーＬ井口、染谷、兼堀、森（律)、宮地、鎌形
■コース　松原団地 5：30－新郷－中央道談合坂 6：45－諏訪南－沢入登山口 P8：20～8：30‥入笠湿原 9：30‥御所平峠 9：40‥入笠山 10：15～10：35‥首切登山口 11：00‥ゴンドラ山頂駅 11：55‥沢入 13：30－高原のミュージアム他見学－松原団地西口着 19：20

松原団地西口を予定通り出発、高速道の車の量が多いと感じた。談合坂で朝食＆休憩を取り目的地に向かった。韮崎あたりから甲斐駒、鳳凰三山が見え始め心がはずむ。
沢入登山口駐車場に着いてホッとした‼４年ほど前には〝ネコの額〟位しかない駐車場で、その上トイレもなかったので、前以て観光課に問い合わせてみたものの、今日全員で確認できたことで心配無用になった。カラ松の緑の中を登って行くと、ハルゼミの声が聞こえ、足元にはスミレやヒトリシズカなどが咲いていて心和む中、５月下旬の広い湿原に着いた。シーズンオフの湿原は静かで少し淋しい気がした。
お花畑入り口の監視員に情報をもらい、広ーい山頂に着いてみると登山者が多かった。３６０度の展望を楽しみながら昼食後、入笠湿原に戻りゴンドラ山頂駅に行ったが、売店はクローズの為『ルバーブアイス』は食べられず残念。下山後、当日雨の場合の見学施設(高原のミュージアム　井戸尻考古館)を下見見学した。５０人余りでも入場可能な事を確認できた上、展示物も興味津々、当日もし雨でも楽しめそうな手ごたえを感じた。

草加山の会のバスハイクが今年も大成功でありたいと願いつつ、ドキドキの毎日です。

入笠山(番外編)

記:宮地敬介

入笠山の一般バスハイクのバスの中で紹介したお話をテントサイトに投稿することとします。

- 入笠山の名前の由来

山の形が冬に保存用に稲を刈り取り積み重ねて置かれる稲わらの束(ニョウ or ニオ)の形に酷似しているから「にお笠山」がなまって「にゅう」になり、入笠山という説が最も有力ですが、他にも、その山成になった形が菅笠にも似ている。とか、編み笠に似ているからという説や、雨が多い場所なので「笠を持って入る」ところからという説もあるとのことです。

- 首きり清水

山頂から南東にある仏平(ぶっぺい)峠の車道わきにある「首切り清水」は、昔、**高遠藩**の金奉行が江戸に参勤の藩主のもとへ金を届けるために、近道をしていまの長野県伊那市(旧上伊那郡高遠町)山室三義地区から山すそを経てここまでたどりつき、この清水で喉をうるおそうと腹ばいになったところを、後からつけてきた盗賊に首を切られたという伝説が残っています。

それとは別に、ある時山廻りの役人が賊が出るという噂を聞きつけ、見回りの最中、喉を潤すべく。清水に近寄り口を近づけ、水を飲み始めたとき、清水に人影を察し、切りつけた賊の刀を、身をよじって素早くかわし、自分の刀で人影の首を切り落としました。そこでついた名前が「首切り清水」だそうです。まぁこんな芸当ができるのは高橋秀樹か松平健くらいの殺陣役者でしょうが、現実には不可能でしょう。とすれば、前者になるのですが、ここで疑問が2つ発生します。まず、藩主に届ける大金を一人で運ぶでしょうか?警護の武士いたとすればこの伝説にも疑問が残ります。更には地名に対し忌まわしい名前を嫌う習慣が日本にはあります。(芦原→吉原、支笏→千歳)なのに「首切り清水」とは怖すぎです。そんな清水飲みたくもありません。では真実はなにか?当時の藩政や時代背景から察すると、藩主のもとに届けられる予定の金は、領民の生活を守るために使われたのではないでしょうか?ただ表向きには盗賊に盗まれたということにし、藩主に納得してもらうために地名まで変更し事実化を図った。と推理した方が納得がいきます。この物語の舞台となった**高遠藩**は江戸時代初期保科家(後の会津藩主)が良政を営んでいましたが、その後鳥居家、内藤家と江戸向きの政治姿勢のため、領民が困窮する藩政だったようです。(ウィキペディアより)そう考えると、この怖い名前も表向きとなり、そんなに怖いところではなさそうですね。

- **入笠山**光学観測所

山頂から南東方向に白いプラネタリュームっぽい建物があります。これは JAXA(宇宙航空研究開発機構)の**入笠山**光学観測所です。ここではスペースデブリと小惑星の探索が行われています。

スペースデブリって聞きなれない言葉ですね、簡単に言うと宇宙ゴミです。耐用年数を過ぎ機能を停止した(された)、または事故・故障により制御不能となった人工衛星や衛星などの打上げに使われたロケット本体、またはその一部の部品、これらに加えて多段ロケットの切り離しなどによって生じた破片、宇宙飛行士が落とした「手袋・工具・部品」なども含まれています。

これらのデブリが 10000k/h～30000k/h の早さで地球の周りを廻っています。こんなゴミが落ちてきたり、新たなロケットに当たったら大変ですよね。なので、観測の必要性があるのだそうです。

また小惑星とは火星と木星の間にある数十万個の小さな星屑群(一つ一つは月よりはるかに小さい)で、発見(確認)した人が命名権が与えられます。そのうちの一つは、入笠山と命名されており、それ以外では、ご自分の名前や奥様の名前を命名されている星もあります。

鬼怒沼～鬼怒沼山

記　大門

山行日：2016 年 6 月 25 日～26 日
メンバー：Ｌ大門・新島・兼堀（恵）・森（律）・出口・山口（敏）・下川

コース（一日目）草加７：１０～春日部７：５７～（久喜～小山～栃木～下今市）鬼怒川温泉駅１１：３０～女夫渕１２：３０＝１３：００～日光沢温泉１５：００（泊）
（二日目）日光沢６：４０～鬼怒沼南端８：４５～鬼怒沼山１０：４５～鬼怒沼南端１０：３５～日光沢１２：２５＝１２：５０～女夫渕１４：１５＝１５：２５～鬼怒沼温泉駅１７：００＝１７：２７～草加１９：５５

６月２５日（土）
朝、草加駅に着く。只今東武線車両故障の点検のため、久喜～栃木間で運休だという。とりあえず春日部まで行くが９時までは動かないらしい。今日中に着けなかったらどうしよう‥皆さんに背中を押され先に進む。駅員さんに乗り継ぎを聞き、久喜で「振替乗車票」をもらいＪＲ→東武に乗り鬼怒川温泉駅に着く。駅からの予定のバスにも乗れず、タクシーを交渉しようとした所、たまたま越谷から同じ所に行く７人のパーティーと出会い、１４人でタクシー３台で交渉成立。一時間で女夫渕に着き軽く昼食を取り宿に向かう。以前歩いたコースはすっかり変わっていた。川沿いの道を２時間程で日光沢に着く。朝からのトラブルの疲れを温泉で流し、夕食後も露天風呂に入り、温泉気分を満喫する。いいお湯でした。

２６日（日）
夜降っていた雨も上がり､」今日も雨に降られなさそうです。小屋の間を通り「鬼怒沼」方面へ行く。最初から急坂が続き息が上がってくる。滝見台からは登山道が濡れていて歩きづらい所も多くなってきた。２時間強で鬼怒沼南端に着く。気温も低く風が冷たく吹き付けてくる。沼に咲く花はまだ早く、ヒメシャクナゲが少し咲き始め
タテヤマリンドウの蕾は色づきもうすぐ咲きそうです。池の点在する木道を歩き、大清水⇔尾瀬の分岐から鬼怒沼山へ向かう。三等三角点のある鬼怒沼山２０１４ｍ頂上はとても狭く７人でいっぱいだ。ここまで来る人はとても少ない。越谷からの７人のほかに４、５人しか会わなかった。帰りは巡視小屋を通り、木道を通り沼を後にする。
昨夜、下山に向かうタイムリミットを考えるなど盛り上がったのに、予想以上に早く着く。日光沢でおにぎり弁当を食べ、女夫渕でもゆっくりバスを待って乗ることができました。
いろいろアクシデントのあった山行で、頼りないリーダーに協力して頂き、参加の皆さまありがとうございました。

太平山　（346m）

記：小野寺　英子

山 行 日 ：平成 28 年 7 月 5 日（火）
メンバー：Ｌ小野寺・黒澤・上原・松田

【コースタイム】

草加駅 7：45＝新大平下 8：54
太平山登山口 9：30…謙信平（茶屋）10：40～10：55…大平山神社 11：23…
山頂 11：40…ぐみの木峠 11：55…晃石山 12：55～13：00…大中寺 14：30…
新大平下駅 15：10＝＝草加

夏山に向けてトレーニングと思い、又々筑波山に行こうとしたが、ブーイングが出てしまい、急遽太平山に変えた。私は一度行ってるが良く分からない。
でも太平山のベテラン二人が一緒なので安心出来た。
予報では曇りの筈が電車の中で雨が降り出した。うっそ！やだなぁ～どうしよう～～
駅に下りたが、しっかりと本降りだ。行く？戻る？何度も何度も考えてしまう。
リーダーにお任せ…！と言われて尚更迷う。でも皆さんそう言いながらも合羽を着始めてる。登山口まで行って見よう～か？なんて言いながら登山口に着いた。
でも行くっきゃないよね…と、階段を登り始める。山頂まで行って見よう…だね！
雨でうっそうとした、滑りやすい登りをゆっくり進む。結構暑いが誰も文句を言わない。
足元が悪いので転ばないように…気を付けて登る。一時間ほどで茶屋に近づくと綺麗なアジサイが見えた。もう遅いかと思ってたが、まだまだ【40 代】の美しさです。
白・ピンク・紫・色んな彩がとっても美しい！！
何と二日前まで,【アジサイ祭り】を開催していたそうです！！
本当に皆、はしゃいで得した気分です。

茶屋の前の展望台の下で昼食を済ませた。
取り敢えず神社へ行き、山頂へ向かった。
誰も晃石山には行かないと言ってたのに、全員がついでだから行こうか…！になって晃石山の山頂（神社）に着いた。
雨を考慮して、下り口を色々と探したが結局ぐみの木峠まで下りて、大中寺まで下ってホッとする。
今日の山行は雨も加わって、結構危なっかしい、急なアップダウンに悩まされた。リーダーとしては、誰も転ばないで帰れたのが一番でした。
下界は雨もすっかりと上がって暑い暑～いよ！！
でもアジサイにはやっぱり雨が良く似合うんだなと、負け惜しみと思いつつ（”ˆωˆ）
暑い中を駅まで歩いた。皆さんありがとう～～、又、行きましょう！！

飯盛山（1643m）・天女山（1529m）

記:兼堀　恵美子

★山行日・・・・７月５日（火)～６日（水）
★メンバー・・・Ｌ兼堀（恵)、石井（文)、澁谷、木原、平野、大門、中島、江崎、八並、杉山
★コース
１日目　　南越谷駅　６時３０分集合
南越谷 6：49＝西国分寺＝立川（特急あずさ３号）＝小淵沢
小淵沢（小海線）9：57=野辺山 10：31
野辺山 10：40～宇宙電波観測所～しし岩登山口（平沢峠)～飯盛山 13：30～13：50～平沢橋～
清里駅 15：30　　15：50 発＝甲斐大泉＜＜＜八ヶ岳ロイヤルホテル
２日目　　八ヶ岳ロイヤルホテル 8：40＜＜＜天女山登山口 9：00～天女山～天の河原～展望
台～東沢大橋～清泉寮 12：00~13：00～清里駅 13：30　　13：59 発＝小淵沢
小淵沢 14：36（特急あずさ２０号)＝立川＝南越谷 18：00

大和ロイヤルホテルが期間限定で１泊２食付で６８４０円・・・これを利用しての山行を計画しました。ホテルのある場所は小海線の甲斐大泉駅です。その近辺で手頃な山｛飯盛山｝がありました。次の日は清泉寮でランチをしたいので天女山が良いかな！二山とも登ったことないし・・・
是非決行したいけど同行してくれる人がいるかとても不安でした。まず石井文ちゃんと澁谷さんに話したところ一緒に行ってくれるとのことでほっとしました。それからそこここで話してるうちに１０人になりとても嬉しく感謝です。
１日目の飯盛山は野辺山駅１０時３１分着でちょっと遅い出発。でもお泊りだしゆっくりしても清里駅発１５時５０分には間に合うだろうと思っていたところ、主人善和よりあんまりのんびりするなとの助言を頂く！！車道を４０分位歩いた所で平沢峠に到着。しし岩登山口です。シモツケソウが出迎えてくれました。しばらく樹林帯で蒸し暑かったり冷たい風が心地よかったりでしたが、そんな中ニッコウキスゲやシモツケソウ、ウツボグサなど咲いていました。平沢山との分岐で視界が開け前方に飯盛山を見ながら気持ちよく進んで行きました。山頂は１列で標識を回って来るくらいの狭さ！但し晴れてれば八ヶ岳、富士山、秩父連邦など３６０度の大パノラマを満喫できるそうです。この日はガスってて残念でした。山頂下は広く途中で会った小学生の団体もそこで昼食タイムを取ったとか。公開バスハイクで来てもスープは作れるのではないでしょうか！下山は予定通りの電車に乗りホテルに着き、入浴・夕食・星空のスライド鑑賞付きで１日目終了しました。

前方飯盛山

２日目は前日大門さんに相談にのってもらい美しの森までは時間的に無理があるので天女山から美しの森までの途中で下山して東大沢橋を渡って清泉寮に出るコースに変更しました。　その代わりにホテルの人のお薦めで天の河原（往復約３０分）に寄ることにしました。お薦めの通り展望が良かったです。少しの間でしたが山々が見えました。天女山からのコースも牧場を通り、沢を渡り、お花を見つけ楽しいコースでした。清泉寮には予定通り１２時ごろ着き、私の念願のランチにみんな付き合って頂きました。帰りの電車も全員一致で特急あずさに乗りちょっとリッチな旅行気分を味わって帰って来ました。
今回頼りないリーダーの上に、のんびり山行、わがまま山行に参加してくれた９名の皆さん本当に有難うございました。お陰様で私はとても満足で楽しい山行でした。

雲取山（2017.1m）

記：新島和子

★日程：2017.7.9～7.10

★メンバー：L新島和子、大門京子、森律子

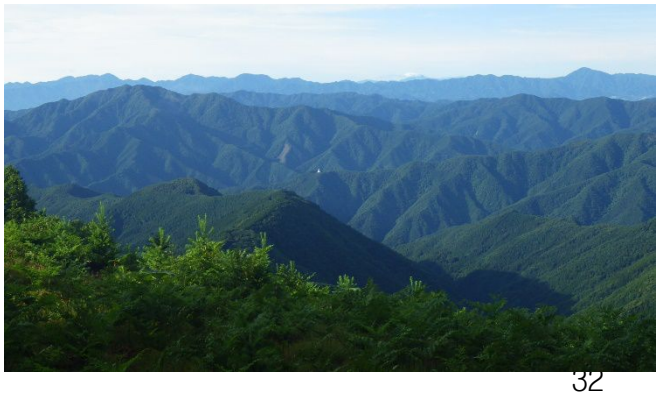
★コース：9日（土）三峰神社登山口 10：10～霧藻ケ峰 11：38～白石小屋～

雲取山荘 14：47

10日（日）雲取山荘 4：10～雲取山 4：40～七ツ石山 6：06～日陰名栗

～鷹巣山 8：30～奥多摩駅 12：00

夏の縦走に向けて、足慣らしの目的でロングトレイル。鴨沢からは何度か登ったことがあったので今回は三峰神社から登り二日目は石尾根を奥多摩駅まで歩き倒そうと計画しました。
天気予報は雨・・二日目は晴れるという予報を信じてパワースポットである三峰神社でお参りしてスタート。樹林帯でほとんど雨に濡れることなく順調に雲取山荘へ。途中、ほとんど人とすれ違うことなく小屋もガラガラ。早く到着したので女子3人、ガールズ（？）トークに花が咲く。一日目に雲取山山頂を目指す予定でしたが、天気が良くないので明朝、ご来光を山頂で・・ということで早々に就寝。二日目、気持ちの良い朝焼けのなか山頂目指して出発。朝日とともに朝食のお弁当を頬張り、ロングトレイル石尾根へのスタート。
富士山を眺めながらいくつかのピークを踏みゴールの奥多摩駅に着いたのがちょうど12時。そこから、もえぎの湯♨までの道のりが長く感じたのは私だけでしょうか・・
まだ空いているお風呂に入り真昼間から乾杯～これだもの！山歩きはやめられない。楽しい二日間となりました。お付き合い頂きましたお二方、本当にありがとうございました。



笠取山と唐松尾山　2016.7.10

記　四宮

7 月 7 日の例会、「7/10 唐松尾～笠取山　L 宮路」と黒板に書かれていた。
週末の予定を決めかねていた私は、お試し山行でお世話になった宮路さんがリーダーなので、是非参加させてもらいたいと思った。
しかし、もうすでに石井会長と兼堀さんの参加が決まっており、4 時すぎには立ちたいとの事だった。私は電車が動き始めないと松原団地駅まで行けない。あきらめかけたが有難いことに宮路さんが最寄り駅まで廻ってくれると言ってくれ、参加できる事になった。

7 月 10 日、4：40 に北越谷駅前を出発。浦和から久喜ジャンクションで圏央道に乗り、青梅までは一時間程度だったが、そこから青梅街道を延々と甲府方向へ、最後は離合するのもたいへんな道を通って 7：30 ごろ作場平の駐車場に着いた。
今回のコースは作場平の駐車場と三之瀬の登山口の間（約 40 分）が車道歩きになる。
はじめに車道を歩くか、後にするかということになるが、兼堀さんの希望で作場平の登山口から笠取山に登り始める。（理由は後ほどわかる）
笠取山の南側一帯は東京都水道局が水道水源林として管理しており、登山道も良く整備されていてとても歩きよい道になっている。（このあたりのお話は会長からお聞きした）
きれいな水の沢にかかる橋を渡りながら徐々に高度を上げていく。

涼しくて気持ちいいこともあり、約一時間半（コースタイムより 20 分ほど早く）で笠取小屋に到着。鹿の出迎えを受ける。

一息ついた後、登り始めると程なく稜線に出た。雲取山と同様に防火帯になっており、開けていて展望がいい。

山頂へ向かう道がまっすぐに伸びていて、左手には奥秩父、右手には大菩薩嶺や道志山系の山並みが広がる。前日が雨であったため、山々の山頂付近には雲が出ていて、残念ながら富士山は見えなかったが、青い空と沸き立つ雲が夏の訪れを感じさせてくれた。

多摩川、荒川、富士川の小さな分水嶺を過ぎ、40 分ほど急坂を登ると笠取山の山頂、展望を楽しんで休憩した後、唐松尾山に向かった。

石楠花にかこまれた登山道を下り、何度かの登り降りを繰り返した後、二時間余りで多摩川水域最高峰 2109ｍの唐松尾山山頂に到着。写真を撮った後、下山の途に就く。

下山は山ノ神土から牛王院下へ二時間半。15：00 前には三之瀬の登山口に到着した。
民宿の軒先で石井会長と兼堀さんには休んでもらい、五十代の若手？二人で車を回収に向かう。車を回収して民宿まで戻ると、お二人が見たことがある方と談笑していた。
NHK-BS「にっぽん百名山」で雲取山のガイドをしていた山田さんだ。録画を観たばかりだったので、思わず駆け寄り握手してもらった。

帰路、蕎麦屋に立ち寄り夕食。予定より早く自宅まで送っていただいた。

梅雨の晴れ間の奥秩父の山をたっぷりと堪能した一日だった。

笠取山から唐松尾山(番外編)

記:宮地敬介

笠取山･唐松尾山のテントサイトは四宮さんが担当してくれましたので、番外編を投稿します。

- 笠取山の名前の由来

山名の由来は、西方の雁峠や南西側の防火帯から見るとこの山の形が笠にそっくりで、「カサトリ」のトリはなだらかさをしめす「トオリ」の変化したもので笠型のなだらかな尾根をいう説。笠が飛ばされるほど風が強い山という説。甲州と武州両国の山廻役人が山林巡回の折、ここでお互いかぶっていた笠を取り、挨拶を交わしたということから名づけられたという説。グミ科の落葉低木であるアキグミをカサトリと呼び、この木が生い茂っている山という説。などがあります。

山名は他に、山梨県側の南麓から見た山容から「袴越(はかまごし)山」という別称もあり、その由来は、袴につけた梯形の腰板に似た形からきているといわれています。山の南面、標高 1860m のところにある水干(みずひ)は大正 7 年(1918)当時の東京市により、多摩川源流の最初の一滴が現れる源頭として定められ、水神社が祀られました。山の南西側には小さな分水嶺があり、この峰の東側に落ちた雨は荒川を流れ、南側に落ちれば多摩川、西側に落ちると富士川となって海へ達します。ここに立つと少し嬉しい気持ちになります。ここは秩父多摩甲斐国立公園です。

- 将監峠

「しょうげんとうげ」と読みます。「しょうかんとうげ」ではありません。将監の名は、荒川の滝川谷支流の金山沢に置かれてあった甲斐武田家金山奉行の芦沢将監なる人物が、常にここを通行していたので名付けられたという説が有力なようです。

それにしても戦国時代には将監という名前が多く出ています。というのも、この将監は官位名でもあり、大将、中将、少将の次となっていますので、今で言うと「准将」か「大佐」なんでしょうね。そうすると「大佐峠」?ん〜!? リビアのカダフィ大佐を連想しそうですね、やっぱり将監峠が良さそうです。

ところで、この将監峠は時代と供に場所が移動しているらしいのです。以前は唐松尾山寄りの牛王院平とよばれるカヤトの原であって武田信玄が御用金を埋めたという伝説があるとのこと♪

- 黒槐の頭

「くろえんじゅ」と読みます、「くろかい(黒塊)」ではありません。黒槐の頭は登山道の北側にあり眺望もあまり期待できないとのことです。今回は立寄りませんでしたが、一度は立派な黒槐の木に拝謁したいものです。この槐ですが草加の近くではサイカチと呼ばれています。サイカチとエンジュは同じマメ科で幹も葉もよく似ているそうですので、どこかで一緒になったのですね。エンジュの木は、春に黄白色の花が開花します、こんな大きな木にこんな可憐な花が、と思うほど綺麗です。

槐の木は浅草寺の神木にもなっており、ありがたい木の様で、文字のいわれは、昔、お面などを槐の木で彫刻し、家の鬼門に置いた事から、この字が用いられ、地方によっては、延寿と書いて、長寿や安産のお守りに使われており、難産の時、この木の枝を握らせると、苦しまずに赤ちゃんが産めるとのことから槐の木は魔除け･長寿･安産･幸せの木として大変喜ばれており、北海道土産の彫り物にも多く使われています。

- 唐松尾山

今回メインの唐松尾山ですが、**唐松**が多く這えている**尾**根の頭または**山**とのことです。もう少し物語が欲しかったのですが、まぁ現実はこんなものかもしれません。でも秋は唐松が綺麗でしょうね。

男体山（２４８４メートル）

記：出口　栄子

期　日：２０１６年7月１０日
メンバー：L 小林いつ子　　森花江　　出口栄子
交　通：草加駅５：２５　新越谷５：３０－東武日光７：３６　バス湯本行き７：５５発
　　二荒山神社中宮祠８：４５
コース：登山口９：００－１３：０３山頂１３：３０－　登山口登拝門１５：４２
　　距離８．７ｋｍ　　標高差１２８２ｍ
まるごと日光フリーパス　４３００円　　スペーシア特急券　８２０円｛春日部まで｝

霊峰男体山は、百名山の１つです。社務所で登拝料５００円を払い、門をくぐると、苔むした木々を見ながら石段を登っていきます。樹林帯に入った後３合目から４合目は、工事用のアスファルト道路を歩いて、ここから急登の登山口にたどり着きます。
前日結構な量の雨が降ったせいで、登山道の整備に１０人以上の人達が土嚢を積んだり、草を刈ったり、倒木の整理にと慌ただしく働いていました。それでも急峻な斜面が多いので
えぐれている所はたくさん見られます。
当日は快晴と言うほどでなく、雲が流れ　時折涼しい風が吹いていました。
先頭のいつ子さんが
「かんかん照りのうえに、雷雨に打たれたら大変。ちょうどいい天気。」
と話しながら歩を進めていきました。
中禅寺湖と奥白根に連なっていく山々の美しい新緑や、湖の南岸に突き出た半島の見え方
が変化することで高度差を感じながら、赤茶けたザレ場や岩場を越えていくと頂上です。
頂上近くの山道の脇に石楠花が咲いていて綺麗でした。
男体山の頂上の岩に突き刺さった宝剣の前で写真を撮り、神社に手を合わせ、下山です。
４時１０分のバスに乗り、JR 日光駅前、日光ステーションホテルクラシックの日帰り湯に浸かった後、食事をしてノンビリ帰りました。
楽しい一日を　いつ子さん、花江さん有り難うございました。

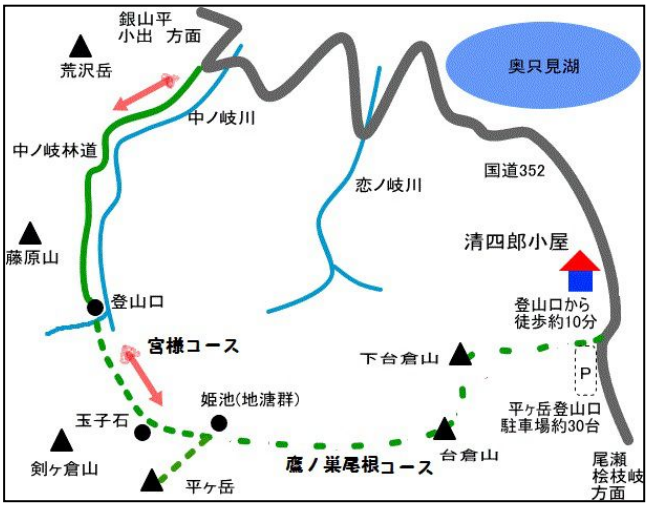
右の写真は頂上の
宝剣前の一枚です

平ケ岳（中ノ岐林道往復コース）

山本　理郎

■日時　　平成 28 年 7 月 10 日（日）～11 日（月）
■メンバー　　L=小野寺、和田、鈴木（勝）山本、
■コース　　1 日目＝草加駅 7：00……関越道小出インター……銀山湖遊覧……銀山平「伝之助小屋」泊
2 日目＝起床 3：00……宿出発 3：50……中ノ俣林道終点 4：50……登山開始 5：15……たまご石分岐 8：00……池の岳 8：25……平ヶ岳 9：10……たまご石 10：10……登山口 12：30……伝之助小屋 14：00

尾瀬燧ヶ岳の北西方向に位置し、山頂に広々とした高層湿原を頂く特徴のある山である。30 年まえに皇太子が登山するにあたり、新たに木道などが整備され登り 3.5Hのルートが出来て現在は奥只見からの日帰り登山がほとんどのようである。それ以前は鷹の巣尾根ルート（台倉山経由）で登り 6Hを要したようである。



銀山平「伝之助小屋」に前泊し午前 4 時に宿の小型バスで登山口まで送ってもらう。中ノ俣林道の終点が登山口となるが、ここは私有地らしく、関係者以外の車は入れない。ネットで見るとこの間（15Km）マウンテンバイクでくる登山者もいるようだ。

5：15 登山開始。すぐに急登がはじまり、途中数か所写真のような「面白い」掲示版がある。

銀山平からのバスは全員の下山を確認して、帰路に就くようで、10 時になったらどこにいてもすぐに下山し、12 時 30 分までに登山口に帰るように注意を呼び掛けています。

2 時間 45 分急登をひたすら登って、たまご石分岐に出る。そこまでくると高層湿原の全容がほぼ見渡せる。目指す頂上は更に緩やかな登り下りで 1 時間を必要とする。山頂の北側は樹木で覆われ南側は裏燧ヶ岳などが見渡せる。木道はさらに 100m位続いており、池塘が点在する 360 度見渡せる湿原に出る。そこから先は柵があり、侵入禁止となっていた。　【参考までに】健脚の人は清四郎小屋まで車で入り、翌朝宿の車で中ノ俣林道登山口まで送ってもらうと、鷹ノ巣尾根コースで周遊登山ができるらしい。（上記概念図＆宿のＨＰ参照）

八幡平（1613m）・八甲田山（1585m）

記：兼堀　善和

★日　　時：２０１６年7月１６日～１９日
★メンバー：L 兼堀（善)、石井（美)、石井（文)、染谷、八並、森（津)、出口
★コース：１６日 松原団地西口 4:30～東北道松尾八幡平経由～11:10 黒谷地駐車場 11:20 出発 11:40 分岐～12:10 熊ノ泉～12:50 避難小屋　昼 13:10～13:20　　八幡平山頂～13:45 レストハウス～14:20 駐車場
１７日　雨の為観光　岩泉・龍泉洞　啄木記念館
１８日　ホテル 5:00～7:00 酸ヶ湯登山口 7:20 出発～9:10 八甲田清水～10:10 八甲田大岳～10:35 避難小屋～11:05 井戸岳～11:20 赤倉岳～13:00 上毛無岱～14:50 登山口
19 日　酸ヶ湯温泉旅館 8:00～16:00 松原団地西口

今年の私の一大イベントとして、東北三山を計画し、気の合う仲間６名と行く事にした。
１６日朝４時半松原出発、朝早く出ただけあって順調に松尾八幡平 IC を出て、八幡平に向かう。茶臼登山口に駐車予定であったが満車で已む無く黒谷地駐車場に到着、予定よりも３０分早く登り始めて、すぐに熊ノ泉で冷たい湧き水で喉を潤し、ここからニッコウキスゲ･ワタスゲのお花畑が素晴らしい！色とりどりの花が咲き乱れ草原に出て、ひと登りし源太森に、眺望いいはずだったがガスでなにも見えない残念、八幡沼畔へ下りまたニッコウキスゲの花畑、そこから八幡平山頂に着くと同時に本降りの雨、急いで山頂レストラン方面に下山、そこから駐車場まで歩道歩き。
二日目朝から雨、当初予定は本命の岩木山であったが皆で相談中止と決め、観光に切り替え岩泉の龍泉洞（日本の三大鍾乳洞）に、地底湖の水深９８ｍの水の量に圧倒され啄木記念館を見て、夕食の買い出しをして八幡平ロイヤルホテルで歓談。
三日目朝５時ホテル出発八甲田山に向かう、酸ヶ湯登山口に７時到着後鳥居を潜りいざ出発、勇んで出たものの雨で相当ぬかるんでいて歩きづらい、八甲田清水まで３０分も予定オーバーしてしまった。避難小屋で少し休み小岳の分岐から高山植物の数もぐんと多くなり気持ちがいい、ほどなく池塘が表れいよいよ八甲田大岳に到着、視界悪く風も強いためすぐに井戸岳に向かう、到着後そこから毛無岱に向かうが相変わらず下がぬかるんでいた。上毛無岱でハクサンシャクナゲに出会い、毛無岱の階段から見下ろす下毛無岱池塘群は一見の価値あり、来て良かったと思った。そこから城ヶ倉温泉の分岐を経て酸ヶ湯登山口に到着。今日は酸ヶ湯温泉旅館に一泊美味しい料理に舌包みをうち、温泉に浸かって疲れを癒やした。
最終日は温泉を８時出発松原に１６時に着いた。

同行いただいたメンバーの方々有難うございました。
いい思い出ができました。

追記：花の名前分からない為、八並さんに出会った名前一覧いただいた

★八幡平

　ニッコウキスゲ、ワタスゲ、イワイチョウ、チングルマ、ゴゼンタチバナ、クルマユリ、ハクサンフウロ、ハクサンチドリ、イワカガミ、モウセンゴケ、ウサギギク、ヨツバシオガマ、カラマツソウ、キヌガサソウ、ミツバオウレン、等々

★八甲田

　チングルマ、ミヤマキンポウゲ、イワイチョウ、ウサギギク、ウメバチソウ、ハクサンチドリ、ハクサンシャクナゲ、あずまシャクナゲ、ウラジロヨウラン、ホツツジ、イワカガミ、イチヤクソウ、マルバシモツケ、ミヤマオダマキ、ゴゼンタチバナ、マイヅルソウ、ツマトリソウ、ウメバチソウ、ミツバオウレン、ヨツバシオガマ、オトギリソウ、イワブクロ、キンコウカ、ギンリョウソウ、ヤマオダマキ、等々

子持山

記　柳瀬　真由美

日　程　2016/7/17
参加者　Ｌ柳瀬　松井　鎌形　森（花）　宮地　５名
コース　若人のみち駐車場７：00→登山口８：00→テラス９：40→獅子岩 10：15
分岐 11：10→山頂 11：30 ・・昼食・・ 12：20→分岐 12：40→林道 13：50
→登山道 13：55→子持神社 14：30

夏になり、皆さんの登山計画が標高の高い場所や、北海道など遠く離れたところが多くなり、必然的に一泊以上でないと行けないものばかりが例会の黒板に書かれるようになりました。私はなかなか泊りでというのは難しく、でも山に行きたいし‥そうか、もう自分で計画するしかないんだな、と思っていた所、グッドタイミングで松浦さんの計画書の書き方講座を受けることができたので、勇気を出して子持山の計画を出してみることにしました。誰も行ってくれる人がいなかったら仕方ないからあきらめようと思っていたのですが、心優しい、そして非常に心強い４人のメンバーが柳瀬と一緒に行ってやろうということで参加して頂きました。
今までは誰かが全てを調べてくれていたものを、自分が調べなくてはならない。それも抜かりがあってはいけない。抜け作の私は、松浦さんをはじめたくさんの人に相談しながら気を付けるべき点、見落としてるところを直しながら計画することができました。あとは当日の天気を祈るだけ。
当日、天気は超怪しかったのですが、雨は降っていなかったので行ってみることにしました。道中雨が降ったり止んだりで心配しましたが、大降りになることはなく何とか行けそうです。前日にかなり雨が降っていたようで、道はぬかるんでいて滑りやすい。沢を渡りながら進んで行くと大きな岩が至る所に現れはじめて、これから山が険しくなることを予感させます。かなり急勾配な登り。でも楽しい。本日の見どころの獅子岩はいつ登場するんだろうと思いながら息を切らせて歩いて行くと、とうとう獅子岩の立て札が！獅子岩の上までは、岩山を鎖とはしごで登るのですが、けっこう怖い。他の皆さんは全員高い所がお好きらしく、サクッと登り切り何も捕まるところのない岩のてっぺんで普通に立っていましたが、私は怖くてずっとへっぴり腰のまま。子持山の獅子岩はクライミングで有名な所なんですね。あんなとこ登るなんて正気の沙汰とは思えません。その後も険しい岩場をひたすら登り、途中で振り返るとさっき登った獅子岩が見えました。本当に立派なたてがみを持ったライオンの横顔に見える！霧が出ていましたが何とか写真に収めることができました。松井さんがカメラマンとなり、様々な写真を撮ってくれました。頂上ではお付き合いくださった皆さんに感謝を込めて作ったキーマカレーをパンに挟んで食べました。残ったカレーを宮地さんが平らげてくれてとてもうれしかったです。下山の際は下りの苦手な私に代わって、花さんが華麗にコース取りしてお手本を見せてくれました。分岐がある場所では鎌形さんがすぐに地図を取り出し確認してくれて、安心して進む事が出来ました。皆さんが不慣れな私を優しく見守りフォローして頂き、無事に帰ってくることができました。本当にありがとうございました。また懲りずに計画したいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

日光　切込湖・刈込湖　（１６７２m）

７月会山行　記；関口　美津江　日時２０日（水）
メンバー：浅井　祐子・　下川・　黒澤　・　木原　初枝・木原　直子
上原・中島・兼堀　恵美子・関口　　計９名
コースタイム
草加発 6：26＝春日部 6：45（日光線乗換）＝6:53 発快速＝日光駅
※途中切り離しあり進行方行後ろ二両に乗る
8:25=バス 8：40=光徳下車 9:48
登山口―山王見晴―切込・刈込―湯本温泉

山、高原、湖の日光に出掛けよう！と切込湖・刈込湖めざして出発です。山の会会員＋木原　直子さん（木原さんの娘）若い人の参加も加わり元気よくスタートです。
ところが先ほど地震がありましたの車内アナウンスが入り、見回り、線路確認の為、速度を落とし運行しますとのこと。予定していたバスには乗れず臨時バスもなく電車＋バス＝フリーパス（安価購入済）バス待の間、湯葉饅頭、ミニトマト等を　いただきながら、雑談しながら結局一時間遅れのスタートでも皆さんから文句もなく、ありがたいです。
光徳牧場から山王峠へ歩きながら枯沼まで人にあわず枯沼は、スリバチ状の沼の跡地で夏は一面に花畑となりコバイケイソウ・ハクサンチドリ・ヤナギラン・アヤメなどが咲き競うところらしいが早かったのかな！
枯沼で昼食を取り双子の湖へと歩く。山斜面側の木々が自分の重さで雪や風雨に耐えられなくて十分に根を張ることができなくなって根が浮き出て落石もゴロゴロと結構あり荒れています。湖面の水位も、雨量が少ないせいか湖低が見えます。暫くジグザグの登り階段を何カ所も越え、やっとゆるやかな道になり歩いていると湯本 温泉の
硫黄の匂いを嗅いだ時は無事に着いたとホットしました。
皆さん不慣れなリーダーにご協力いただき有難うございました。

幌尻岳(２０５２m)・夕張岳(１６６７m)

)

【ﾒﾝﾊﾞｰ】旅Ｌ．山崎(寧)、 山Ｌ．山﨑(正)、澁谷、大門

【日 程】2016(平成 28).7.20(水)～25(月)

7/20(水) 草加駅 7:44→9:30 成田空港国内線ターミナル駅
ｼﾞｪｯﾄｽﾀｰGK109 便 10:25→12:15 新千歳空港→新冠町判官館森林公園(泊)

7/21(木) 幌尻岳往路(ポロシリ山荘泊)

7/22(金) 幌尻岳山行(ポロシリ山荘泊)

7/23(土) 幌尻岳復路(夕張岳ヒュッテ泊)

7/24(日) 夕張岳山行(夕張フォレスターユース泊)

7/24(月) 樽前岳・支笏湖　　20:00 新千歳空港 ﾊﾞﾆﾗｴｱｰJW914 便→21:30 成田空港

→草加駅

① 幌尻岳

記：山﨑　正夫

【天 気】晴れ

【ｺ ｰ ｽ】

7/21(木)　宿判官館森林公園 4:10→6:10 奥新冠ゲート 6:20～12:45 ポロシリ山荘

7/22(金)　ポロシリ山荘 4:15～9:55 幌尻岳山頂 10:00～10:40 肩～12:00 幌尻岳山頂 12:20～ 15:00 ポロシリ山荘

7/23(土) ポロシリ山荘 4:10～奥新冠ゲート→夕張岳ヒュッテ

今回の山行は、山崎寧子さんの強いお誘いにより実現したことをまず感謝。さらに旅程、ガス、食料調達、事前の荷物の別送等に尽力いただきありがとうございました。

7/20(水)

草加駅に集合し、初めてのＬＣＣ搭乗で、新冠町経営の判官館森林公園のバンガローに到着。快適な宿泊所である。新冠温泉レコードの湯に入り、翌日の荷造りをし、就寝。

7/21(木)

3:30 起床し、4:10 に出発。カーナビを頼りに進み、途中から林道になる。新冠湖まで来て、初めて幌尻岳の手書きの小さな表示がある。さらに進み、ようやく奥新冠ゲートに到着。車が１６台程駐車している。入山届けを書き、長い 18.5km の林道歩きの始まり。５０分程歩くと、新冠川の橋の上に、いこい橋ゲートがある。このゲートは橋の両脇にもせり出しており、ポロシリコードよる自転

車は通さないという意志の強さを表している。ここからさらに歩き、途中、山荘から返ってくる登山者４組と会いながら、山荘の情報を得る。幌尻湖が見えて程なくポロシリ山荘に着く。早速寝る場所を２階に確保する。直前の連休には混んでいたようだが、我々の後からは３組が到着。他の人は山を下りてきた人達だ。

7/22(金)
3:30 起床し、4:15 に出発。最初は頭まである笹藪を朝露に濡れながら歩く。小さな沢を４つ越えると、急登が続く。急登の樹林帯を過ぎると、お花畑に到着。ここで、３人の女性の歩きが止まる。それほど、多種の花が見事に満開だ。ここでゆっくりと時間を過ごす。ここから１時間程で大岩を経由し、振内コースと合流して、幌尻岳山頂に着く。ここまで予定より時間が掛かったので、急いで肩まで行くことにする。４０分で肩に着き、七ツ沼カールを見下ろす。上から見ると、思っていたよりこぢんまりとしたカールに見える。肩で雄大な景色を見ながら食事をし、山頂に戻る。往路を引き返し、高度を下げる程、蒸し暑い中をポロシリ山荘へ戻る。帰り道は、朝と違い、思いの外乾いており助かった。
本日も山荘はそれほど混雑せず、昨日と同じ２階に宿泊する。

7/23(土)
3:30 起床し、4:30 に出発。長い林道歩きを経て、新冠温泉レコードの湯で汗を流し、昼食をいただき、夕張町へ移動。夕張岳登山口の駐車場では、土曜日で、尚かつ、夕張ヒュッテを管理しているユウパリコザクラの会のイベントがあるためか満員で、ようやく狭い路肩に停めることが出来た。

幌尻岳感想(7/21、23 の林道歩き)　　記：澁谷　久美子
２カ所のゲートを越え､18.5㎞ の林道を新冠ポロシリ山荘へと向かった。ダム湖沿いを縫うように迫ってくる山、山間の沢、深い森、キタキツネ、シマリス、夏の花と楽しみながらも、やっとのことで新冠ポロシリ山荘に辿り着きました。来た道を思い出すだけでも長くつらい林道歩き・・・！
また、１日遅れてきた人が熊に出会い１時間程停滞した話に、熊の領域に自分たちが居ることに注意しながらの下山でした。
無事に登頂、下山が出来たのも山﨑さん、寧子さん、大門さんのお陰と感謝しています。
“楽しかった”
奥深い山との思いも一段と感じました。

② 夕張岳　　記：大門　京子

【天 気】晴れ

【ｺｰｽ】

7/24(日)　夕張岳ヒュッテ 4:00～冷水コース～6:05 馬の背分岐～6:55 望岳台～9:10 夕張岳 9:40～12:00 馬の背分岐～13:25 夕張岳ヒュッテ

登山口から少し行くと鮮やかな青色のエゾアジサイが迎えてくれる。比較的歩きやすい冷水コースを行く。花の名山に来たのですから多種多様な花を楽しみながら、急坂もゆっくり登り望岳台に着く。芦別岳、恵庭岳、羊蹄山、十勝連山も薄く望める。さらに先の前岳湿原にシロウマアサツキが群生して咲いていた。イワイチョウ等他の花が色を添えている。熊ガ峰の先には固有種のユキバヒゴタイが咲き始めていた。見たかったユウバリソウは花が終わっていたのが少し残念だったが、お花畑には多くの花が咲き誇っている。

頂上下の神社から３０分程で山頂に着く。天気に恵まれ景色を見ながら一息入れる。

下山に向かうと下の熊ガ峰辺りでクマ目撃情報があり、幸い私達は出会うこと無く無事下山できました。

沢山の花に出会え、良い山旅をありがとうございました。

夕張岳感想　　記：山崎　寧子

夕張ヒュッテは、こじんまりとした避難小屋で、トイレも水場も充実していた。
日曜日ということもあり、混雑していたものの私たち四人は一部屋譲ってもらい、土間という名の板間に寝ることができた。
翌朝４時登山を開始し、登山口からお花、お花、お花の中をゆっくりと歩くことができた。
山頂付近は、とにかく広い、長い、雄大な尾根を歩き、３６０度絶景の山頂でごはん。
近くでは熊が出たらしく、後からの登山者は登頂できなかったとのこと。
私たちはラッキーだった。
言葉では表現できない山の美しさとメンバーの楽しさに感謝。

初めての北海道の山「富良野岳」「夕張岳」

松浦　剛

１、期　日：２０１６年7月２８日～３０日
２、ルート：１日目、草加～成田空港～千歳空港～富良野市～カミホロ荘
　　２日目、カミホロ荘～富良野岳～富良野市～夕張山地越え～夕張市
　　３日目、夕張市（ホテル)～登山口～夕張岳～登山口～夕張市～千歳空港
　　～成田空港～草加
３、メンバー：Ｌ山本、ＳＬ松浦、新庄、関口、兼堀喜、鎌形、阿部、平野、木原
　　、　　八並、森花
４、記　録

7月２８日（晴れ）北海道へ

１１時１５分：千歳空港に着き、これよりレンタカーにて富良野市に向かう。高速道央自動車道で占冠インターにて下車し、近くの渓谷と岩場を見学ハイキングし一般道を走り富良野市へ、山の中を走る国道を北上し富良野市へ向かう。富良野市内のコンビニで翌日の昼食を買い求め、一路富良野岳山麓のカミホロ荘に向かう。両側が白樺の林に覆われると、やがて道は曲がりくねり見る見る高度が高くなる。
１６時３０分：カミホロ荘着。大変立派な山の宿らしい国民宿舎である。まずは風呂に入りビールを全員で飲む。風呂からは針葉樹林の彼方に富良野平野が一望出来きる、素晴らしい眺めである。夕焼けの空は広々と雄大で美しかった。夕食後も皆で集まり楽しく酒宴を開く。

7月２９日（快晴）富良野岳へ

４時００分：起床、天気は快晴。皆集まった頃にカミホロ荘を出発し、登山口のある十勝温泉（一軒しか宿はない）まで車で登る。
５時１５分：大きな駐車場に車を止め、身支度し登山口を出発する。初めは平坦な広い山道をだらだら登り、やがて三段山への分岐点に出るが通行止めを見送り、安政火口に向かう。段々と前方の景色が開け、十勝岳、上ホロカメットク山、上富良野岳の稜線が見えるようになり、雄大な景観となる。やがて安政火口で出来た谷が現れ、この谷を渡ると安政火口との分岐点にたどり着く。山道の両側は笹薮に覆われている。
５時５０分：安政火口への分岐点着。宿で作ってくれた朝飯を食べて一休みする。

６時０５分：出発、此れよりは東に向かい、上富良野岳や三峰山の腹を巻きトラバースして富良野岳に向かう。初めは大きな岩が道を遮り登り難いが、やがて道は安定し５～６回ほど雪渓を横断し２度ほど休憩を取り、やっとのことで稜線にたどり着く。
８時１５分：富良野岳と三峰山の稜線着。展望は一気に開け、高山植物の花も咲いている。黄花石楠花が本州では見られないほど、小さく背を低くし可愛らしく咲いていた。
少し休み、頭上に聳える富良野岳の山頂を目指す。稜線の両側は高山植物の花が咲いており、のんびりと山頂を目指す。しかし花の盛りにはまだ早い様だ。
８時５５分、富良野岳山頂着。周囲には遮る山もなく、裾野が大きく開け、湿原が針葉樹林帯に囲まれ、北海道らしい広々とした裾野の美しさを見せている。北方には上富良野岳の奥に十勝岳が聳えている。快晴の空の下に富良野平野も広々としている。昼食を取りゆっくり休み山頂の景色を楽しむ。

富良野岳山頂

ナナカマドの白い花と富良野岳

９時２０分：富良野岳山頂発。下山は皆中々に快調だ。ナナカマドの美しい新緑と白い花が実にマッチして美しく、その上に既に遠くなった富良野岳が聳えていた。
１２時２０分：登山口駐車場着。一休みして車に乗り夕張市に向かう。富良野岳の麓を通り過ぎ、富良野平野に入るとカーナビの指示はなんと夕張山地を乗り越えて、夕張市に向かう指示になっており、高速代節約のためにこれに従う。夕張山地の峠を越えると道は山の中をくねくねと何処までも下り坂となり、うんざりする。それでも夕方４時半ごろには夕張市内のホテルに着く。市内に入ってからメロンの直売所により皆で夕張メロンを食べるが、大変美味しかった。夕張市は街道沿いに家が並んでいる程度の小さな町で、寂しい限りである。ホテルに着いてから暫く皆で酒宴を開き、ホテルの夕食をゆっくり食べ早めに床に就く。明日は早朝４時発である。

７月３０日（快晴）夕張岳

３時３０分：起床。
４時００分：ホテル発。登山口まで距離が有り、早めにホテルをでたが、外は既に明るい。街道から湖の橋を渡り、川に沿い山奥に入るが、段々道は細くがたがた道となり、運転手は大変だ。夕張市のホテルから１時間で登山口に着くが、既に１０台ほどしか止められない駐車場は満員だ。仕方なく道の脇に駐車する。
５時１５分：登山口発。川沿いの道を暫く上ると夕張ヒュッテに向かう道と分かれ、冷水コース登山ルートに入る。しばらくは尾根の取りつきの急坂を登りが、やがて坂も緩やかになる。道も確りしており、歩きやすい。
７時０５分：以外に早く馬の背コースとの合流点に着く。いよいよ本格的に幅広い尾根の稜線を歩くようになる。所々で盛りを過ぎた白根葵の花が目に入るようになるが、
望岳台までは厳しい登りが続く。しかしペースは安定して登り着く。
７時５０分：望岳台着。実に順調なペースで登り着く。これより暫く上れば山頂直下に広がる広大な湿原帯にはいるが、登るに従い小沢の水場にはリュウキンカが鮮やかな黄色い花を付けて美しく咲き誇り、所々には大きく紫の鮮やかな花を付けた白根葵も目に入る。やがて笹薮を潜り抜ける様に歩いていると、湿原帯にたどり着く。此れから暫くは、比較的平坦な湿原の木道歩きとなり、明るい空の下、気分も晴れ晴れとしてくる。遥か前方に夕張岳のピークが見えるが、そこまでは広大な高層湿原となり、７月中頃になれば、此の湿原も素晴らしいお花畑に変身するであろう。
８時４０分：ガマ岩下を通過する。湿原の中に大きな岩峰が飛び出しており、これを地図上ではガマ岩と呼んでいる。

８時５０分：風通しのよい湿原の木道で休む。望岳台から１時間休まず歩く。笹に覆われた山道は笹をかき分けて進むほど、生い茂っている場所が多い。湿原が終わると小さな山が前方を塞ぐが、これを乗り越え夕張岳最後の登りにたどり着く。
９時５２分：夕張岳山頂着。這松の生い茂る最後の急坂を登り詰め、やっとのことで山頂にたどり着く。山頂は空に浮いたように周囲から飛び出しており、実に山頂らしい山頂だ。ゆっくり昼食を取り、夕張山地の山々を見渡す。遥かに幌尻岳が望まれる。
２０分ほど休み、いよいよ下山となるが、皆実に快調な足取りで、下降する。途中で高山植物の花を写真に収めながら、楽しく下降する。

夕張岳山頂より幌尻岳を望む

遥かな夕張岳に続く広大な高層湿原

１３時４５分；登山口着。全員実に順調に歩いたものだ。思ったより早く下山でき、フライト時間までの余裕が出来、楽しく帰路に就くことが出来た。帰路は再びガタガタな山道を走り、アスファルト道に出るとホッとする。夕張市に戻り、夕張インターより高速に乗り、千歳空港に向かう。レンタカーを返却し、空港でお土産を買い、レストランで楽しくビールで乾杯し、夕食を食べフライト時間をまった。楽しい北海道の山旅であった。

赤岳　2899.2m

記　小林いつ子

【山　行　日】　平成28年7月29-30日(金土)
【メ ン バ ー】　L小林(い)・出口・岩谷(友人)　　出口車使用
【日　　程】　7/29　新越谷4:30－中央道小淵沢IC下車―8:20赤岳山荘出発―
11:25行者小屋―13:30赤岳展望荘
30　展望荘発6:30－6:50頃赤岳山頂小屋近くの尾根で滑落事故発生(けが)
15：00往路を戻り赤岳山荘に下山

29（金）　待ちに待った梅雨明けに、私たちは一日日延べをして赤岳に向け出発した。
朝は雨上がりの少し蒸し暑い状況で林道を登った。赤岳鉱泉までは北沢コースを選び
ほたる袋などの花を楽しみながら、幾度となく沢を左右へ渡る。

赤岳鉱泉に着き、お約束のコーヒータイム。以前、雪の硫黄に行った時とは季節が違うので、当然初めての景色に胸がときめいた。鉱泉から一山超えてと言う感じで昼前に行者小屋に到着した。ここで、岩谷さんから「体調がよくないので小屋で私たちの帰りを待ちたい」との話があった。私は天気が安定していて、先は急坂だけど時間もたっぷりあるのでと岩谷さんに先頭に行ってもらい、ゆっくり休みながら歩こうと言ってしまった。後で何度も何度も繰り返し後悔することになろうとは夢にも思わないことだった。

13：30赤岳展望荘に到着。小屋の周りはコマクサなどのお花畑であった。個室が一つだけ空いていたので変えてもらった。これは出口さんが持ってきたクーポン券のおかげで大部屋との差額なしで泊まることが出来た。出口さんのお手柄である。体調の悪い岩谷さんもベッドでゆっくり休めたと思う。三時頃から雨になり、ご自慢の展望もなくなったが、五右衛門風呂に浸かる事が出来、大満足であった。

30（土）　6：30展望荘出発。7時少し前、岩谷さんが赤岳山頂小屋近くの尾根から滑落。
およそ50Mのガレ場まで落下。長野県警のヘリコプターで助けていただいた。幸い命に別状はなかったが腰椎・腰骨・両足骨折の重傷をおい、諏訪日赤病院に入院中である。ご主人から聞いたところによると今（8/21)、コルセットなどをして体を起こすことが出来るようになったそうだ。これからは容易でないリハビリが待っているだろう。

＊事故の報告は別途させていただきます。

岩谷さんがヘリで運ばれて行ってから、今度は私たちが安全に下山しなければいけないので、小屋の方たちも随分心配して下さっていた。夏山縦走が初めての出口さんにも本当にかわいそうな経験をさせてしまった。

リーダーとして反省することはいっぱいあります。でも、今は生きていてくれた事が一番なので、リハビリをおえて帰ってくる彼女を静かに待ちます。

長野県警・救助ヘリ・山小屋の方たちに心からお礼を申し上げます。

28・7・30　赤岳　滑落事故報告　記　小林いつ子

今回、ヘリコプター出動という大事を起こしてしまい、リーダーとして,ご家族はじめ山の会の皆さんに大変なご心配と御迷惑をかけてしまったことを心からお詫びいたします。私も大変取り乱していたので、覚えていないこともありますが、滑落事故の原因と経過をお知らせします。怪我をしたのは会員ではないので、あえて名前は書きません。

原因　直接の原因は、コース選びのミス。私は崖側の道を選んでしまった。

前日、体調不良を理由に行者小屋で待ちたいとの意思を考慮していれば、何も起きなかった。

救助までの経過　二時間

30（土）　◇　AM6：50 頃　赤岳山頂小屋近くの岩場尾根で 50M 滑落

◇ 山頂小屋付近にいた人に小屋の人を呼んでもらうように呼びかけた。

◇ 小屋の人が駆けつけ、状況を把握、ヘリを要請すると言われた。

◇ けが人の名前・自宅の住所・年齢などを聞かれたので、手持ちの計画書に分かる範囲を書き加えて渡した。

◇ 声掛けをしながら 30 分以上待ったが、救援のヘリは来ない。

長野県警から保険の加入有無・ヘリと更に人手が必要になるかもしれない時の費用発生等の了解を即答する必要にかられた。

この時点では救助ヘリは飛び立ってはいない。岩谷さんは私たちの呼びかけにハンカチを振ったり、返事をしてくれたり、懸命に答えてくれた。

◇ 私は、そのまま山小屋に待機するように言われ、へりを待つ間に留守番の松浦さんと岩谷さんのご主人にあらましを連絡。その間、出口さん一人で声掛けを頑張り通してくれた。そして付近にいた人たちは快く伝令を引き受けてくれた。

◇ 救助へりの音がしたので、小屋を飛び出し周囲の人たちに暴風の注意を呼びかけた。幸い雲も風もなかったので、小屋の人と、ヘリとの交信がはじまった。

◇ 8：50 頃救助ヘリ到着。降りてきた隊員一人で手際よく、けが人を抱える様にして、近くにあったリュックも背負い病院へ搬送。

＊色々な質問に答えられないと迅速に運ばないようなので、山行計画書の提出は必須。
携帯番号だけでなく、緊急連絡先・自宅住所・保険の有無などがあると良い。

＊携帯はやはり入りずらい。今回は小屋で借りられたが、異なる会社の物があれば良いかもしれない。何と言っても小屋が近かったのは不幸中の幸いだった。

これからは二度とこの様な辛い経験をさせない！しない！ように、常に危機意識を持って山歩きを続けたいと思います。

赤岳（2899m）

記：畑野　順二

◆山行日：2016 年 7 月 30～31 日
◆山行者：森律・新島・四宮・畑野仁・畑野順
◆コース：7/30　草加 4：30-美濃戸 7：25-行者小屋 9：45-赤岳 12：10-奥ノ院 14：40-硫黄岳山荘 15：30
7/31　硫黄岳山荘 6：25-硫黄岳 7：15-赤岩の頭 7：35-赤岳鉱泉 8：45-美濃戸 10：30

久しぶりにコマクサが見たくなり、赤岳～硫黄岳（南八ヶ岳）に出かけるこたにした。
７月の最終と 8 月の最初の土日曜が、山小屋は最も混雑すると聞いたことがあるので、美濃戸の駐車場と硫黄岳山荘の個室を予約して出かけた。
少し早めの 4：30 に出発し、美濃戸に 7：25 に到着する。すでに駐車場は満車だ。小屋の方に聞くと 6：00 ごろには満車になったそうです。良かった駐車場予約していて。
南沢を歩き、まずは行者小屋をめざします。なだらかな登山道をだらだらと登って行くと思っていましたが、エ～こんなにキツイ登りだったのかと思いながら歩いて行くと赤岳が見えてきました。行者小屋はまもなくです。

行者小屋で休憩し文三朗尾根を登ります。急登の階段の登山道は、段差が大きく自分のペースで歩けずバテバテです。やっとのことで、阿弥陀岳と赤岳の分岐まできました。
ここからは、岩場の登山道になります。
赤岳に行く途中にピンク色のコマクサが咲いていました。まさかこんな所に咲いているとは思ってもいませんでした。
山頂直下では、少し渋滞していて、やっとのこと赤岳につきました。山頂では、沢山の登山者がおられ記念写真だけを撮って赤岳頂上山荘まで移動し昼食です。
硫黄岳山荘までの登山道は、アップダウンの岩場の登山道が続きます。途中のお花畑に感動しながら、慎重に歩きます。
硫黄岳山荘付近のコマクサ群落は感動しました。
硫黄岳山荘につき受付後、個室に案内されると、すでに布団がひいてあります。これならゆっくり寝れそうです。夕食後は、雨が降ってきて、星の撮影は諦めて寝ました。
朝、起きると晴れています。日の出を小屋前で見て、朝食し出発です。
硫黄岳で昨日歩いた、赤岳から横岳をバックに記念写真を撮り美濃戸まで下山しました。
一日目は、霧がでましたが、二日目は、晴れて楽しい山行ができて皆様ありがとうございました。

千枚岳・荒川三山・赤石縦走

記　小野寺英子　石井美樹

日　程　平成２８年７月３０日～８月２日（三泊四日）
参加者　Ｌ石井美　兼堀善　山本　和田　小野寺英　森花江　鎌形　　７名
日　程　７月３０日　松原西口 5：00－畑薙ダム 9：45-11：30－椹島 12：30
　　７月３１日　椹島 3：55－清水平 8：30－見晴台 9：45－千枚小屋 12：10
　　８月０１日　千枚小屋 3：50－千枚岳 4：50－丸山 6：05－悪沢岳 6：45－
　　中岳 8：30－前岳 8：50－荒川小屋 9：10－大聖寺平 11：05
　　－赤石小屋分岐 13：10－赤石岳 13：30－赤石小屋分岐 13：45
　　－赤石小屋 16：40
　　８月０２日　赤石小屋 5：55－椹島 9：55 ・ 10：30－
　　白樺荘 11：45 ・ 13：00－草加 18：30

｛記　小野寺英子｝

７月３１日

椹島で一泊し、朝４時出発！ヘッドランプを付けて、前日下見をした滝見橋の左から下に降りて登山道に入って行く、今日は千枚小屋まで標高差 1500ｍの超ロングコースの始まりだ。短い吊り橋を渡り、樹林帯の中を直ぐに急登が続く、フウフウ言いながら懸命に登る。やや緩やかになって林道に出るが、また急な階段を登って樹林帯だ。

兎に角暑い！小石下を過ぎた頃だろうか？足の具合が変だ？休憩時に早めの「生ゴム」ケアーをして貰い、誤魔化しながら進む。不安な気持ちで自分の身体に集中して歩くので、廻りが目に入らない。岩場を跨いだ瞬間、やってしまった！両足が同時につってしまった！！休憩をして貰い、和田さんに強烈な生ゴムケアーをお願いしながらもどうにか進む。何故だろう？この山に備えて体調管理はした筈なのに…それでも３回のケアーでどうにか大丈夫だった。

全くお花の無い登山道を登り返しながら、標高を上げて行く、清水平を過ぎ、湿地帯でシダの群生が綺麗な蕨段まで来た。半分は越えたぞ！やがて小さな見晴台に出て少し長めの休憩、椹島の助六弁当を平らげた。これから登る悪沢岳、小赤石岳、奥に赤石岳が見える。

気を取り直して目指すは駒鳥池、中々着かないが地図を見ると標柱有りと…緩やかな登山道に有った！小さな池が…グリーンの水をたたえている。

シラビソの中を大きく左に回り込む、やっとお花が顔を出して来た。トリカブトが沢山咲き始てる…が、小屋まで緩い登りだが大変だった。千枚岳への分岐を越え、12 時 10 分に千枚小屋に到着する。イブキトラノウの群生、沢山の花・花…に囲まれた綺麗な小屋でした。

小屋の前から見える富士山は、頭に雲を載せて恥しいみたい。小屋に入り、ビールでカンパ～イ！！明日は早いので早めにシュラフに潜り込む。

翌朝突然だが、山本さんが肩の痛みが酷くて下山するという、どうも無理そうなのでとても残念です。山本さんに見送られ６人のメンバーで暗い中、千枚岳を目指す。結構な登りで暑い。途中富士山の横から朝日が見えとても綺麗だ。やっと展望の有る場所で一息つく、山頂はもう目の前だ！展望の良い頂上でこれから歩く山々を見て、やっと念願の荒川三山の縦走の始まりを強く感じる。

〔記　石井美樹〕

８月０１日

千枚岳に別れを告げ、悪沢岳に向かう。花畑の中を楽しみながら縦走を満喫する。悪沢岳の山頂は、青空で迎えてくれた。これから向かう赤石岳も、その雄大さを誇らしげに見せつける。

千枚小屋で見た天気予報は、昼頃から雨となっている。しかし、天候が崩れるとは思えないほど、青空が頑張っている。

花畑と縦走路のパノラマを満喫しながら、ノンビリと山を楽しみ、おしゃべりに花を咲かす。

しかし、大聖寺平に近づくにつれ、雲が上がってくる。雷も遠くの空でなっている。

予報通り、１２時頃、赤石岳の手前で、雨が降り出す。赤石山頂で一時雨は止むが、赤石小屋に向かう途中、大雨となる。雨具が役に立たない。パンツまでびしょ濡れである

天候は、晴れのち雨で、５０点であったが、楽しい思い出がまた一つできた。

完

草津白根山（2171m）

記：澁谷久美子

★日程　2016/8/3
★メンバー・・Ｌ澁谷、黒澤、芳野、下川、石井（文）、兼堀（恵）、関口、阿部、村上、
上原、鈴木（里）、江崎
★コース

南越谷＝大宮＝高崎＝長野原草津口＜＜草津温泉＜＜殺生河原
殺生河原１１：３０～ロープウェイ山麓駅～山頂駅１１：４０～登山口１２：１０～本白根展望所１３：３０～富貴原の池コースへの二又１４：００～山頂駅１５：００

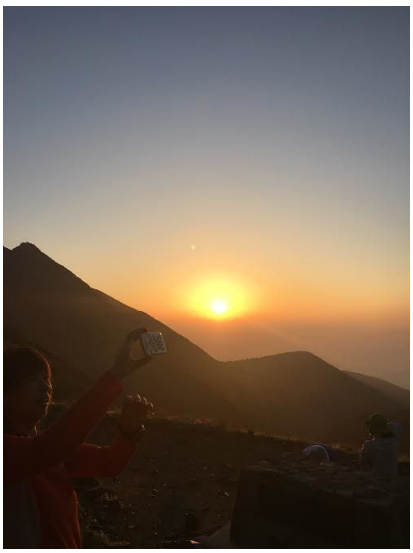
前夜の大雨にもかかわらず、朝には連絡もなく南越谷駅での皆さんの集合のすばらしさに圧倒されました。
[雨でも行きたい！][コマクサを見たい！]と電車に乗り出発しました。
白根火山ロープウェイで山頂駅まで行き、晴れ間を見て昼食を取り、登山口へ向かいました。
ダテカンバの林の中、ヤナギランの花の中、しばらく登りが続きます。
平坦な道になると突然荒涼としたガレ場一面コマクサ咲き誇り、本白根展望所までコマクサです。
以前の賑わいはなく、静かで穏やかな草津白根山を満喫してきました。

小雨は降り続きましたが、遊歩道は木道が整っていたので楽しい山行が出来ました。
火山活動が続き、立ち入り禁止区域がある中、参加して下さった１１名の方々に感謝しています。
ありがとうございました。

朝日岳（1896ｍ）三本槍岳（1917ｍ）茶臼岳（1915ｍ）

記 金野喜代美

・【日程】：２８年８月６日（土）夜出発 ７日（日）
・【メンバー】：L 山崎 松井 宮地 金野
・【コース】：６日 草加 22：20→県営駐車場
７日 県営駐車場 3：40→峰ノ茶屋跡 4：40→朝日岳分岐 6：10→朝日岳 6：20→朝日岳分岐 6：35→清水平 6：55→中ノ大倉根分岐 7：25→三本槍岳 8：05→中ノ大倉根部分岐 8：35→清水平 9：10→朝日岳分岐 9：45→峰ノ茶屋跡 10：30→茶臼岳 12：10→山頂駅 13：20 ロープウェイ→草加



高速道路を下りて県道１７号を走る。濃霧があったりしましたが県営駐車場へ到着しました。空は満天の星で手が届きそうなくらい近く感じて感動しました。
モルゲンロードへの始まりは県営駐車場の石段を上って登山センターがあり小さな鳥居が登山道の入り口です。
ヘッドライトをつけて足元を確認しながら前進です。峰ノ茶屋跡に到着して朝日を待った。段々に昇ってくる朝日に感激でした。
朝日岳までの道のりは段差が大きく石がごろごろで鎖場もありました。三本槍岳に続く山道で整備された板道があり風も涼しかった。山頂にはハイカーが休憩していた。
峰ノ茶屋跡に向かうと、夏休みのせいでもあったのかたくさんの登山者たち。形も大きさもばらばらの石段をひたすら登る。風も強く、硫黄の臭いと小さい噴煙、草木もない。
茶臼岳山頂へ着いた。
頂上には小さな那須岳神社の祠がある。ロープウェイへ向かう道はごろごろの岩と砂で歩きにくく、段差もかなりありました。
今回の山行に参加出来て本当によかったです。
山崎さん、松井さん、宮地さん、運転お疲れ様でした。ありがとうございました。

尾瀬ヶ原～アヤメ平

記：村上　綾

○山行日　平成２８年８月９日（火)～１０日（水）
○山行者　Ｌ下川、渋谷、杉山、山崎正、木原、村上、会員外２名
○コース　　９日　鳩待峠～山ノ鼻～ヨッピ吊り橋～東電小屋～弥四郎小屋
　　１０日　弥四郎小屋～竜宮～アヤメ平～鳩待峠

１日目

心配していた台風も前日に通り過ぎ、電車とバスを乗り継いで、鳩待峠を目指しました。沼田の街を過ぎたあたりからポツポツと雨が降り始め、鳩待峠に着くと、予想外の大雨になっていました。１日目にアヤメ平に行く予定を変更し、尾瀬ヶ原を目指すことになりました。雨が降ったりやんだり、日が急に射したりと気まぐれなお天気でしたが、尾瀬ヶ原に入ると、まさに「尾瀬！」という景色が出迎えてくれました。

池塘には白くて小さなヒツジグサ、風に揺れるサワギキョウ、鮮やかな黄色のミズギクなど、尾瀬では花が少ない季節とのことでしたが、たくさんのお花を見ることができました。東電小屋を過ぎ、激しい雨の中を歩いていると急に太陽が顔を出し、目の前にきれいな虹がかかり、幻想的な雰囲気でした。弥四郎小屋では、至仏山が真正面にそびえる広々としたお部屋に案内され、おいしい夕食と気持ちのよいお風呂で、山小屋ライフを満喫しました。

２日目

気持ち良く晴れて、前日に行けなかったアヤメ平に向けて７時前に出発しました。朝つゆできらきら光る草原の中、尾瀬を独り占めした気分で歩きました。竜宮の十字路を過ぎ少し行くと、今回の山行初めての上り道が始まりました。前日の雨で滑りやすく、石や木の根が出た道を慎重に登りました。白くて神秘的なギンギョウソウ、何十年かに１度だけ咲くという竹の花、時々木々の間から見える尾瀬ヶ原に元気をもらいました。途中、目の前に池塘、そのバックには燧ケ岳という休憩スポットに立ち寄りました。メンバーの皆さまからのコーヒーやおやつをいただき、何とも贅沢なコーヒータイムが開かれました。

上りが終わると、いよいよアヤメ平に到着。広々とした草原のなかに、木道がスーッとのび、空を映す池塘とお花たち。前には至仏山、後ろには燧ケ岳。さわやかな風が吹き抜け、まさに「天上の楽園」でした。アヤメ平にある案内板を見ると、実は昔の人がキンコウカをアヤメと間違えてアヤメ平と名付けられたとのことで、豆知識も得ました。いつまでも景色を満喫していたいところでしたが、後ろ髪引かれる思いでアヤメ平をあとにし、足元に気をつけながら鳩待峠まで下り、無事山行を終えました。

リーダーの下川さんはじめ、メンバーの皆さまには大変お世話になりました。楽しい山行をありがとうございました

下棚沢（西丹沢）

記：山崎　寧子

山行日：　　2016 年８月１２日（金）
メンバー：　Ｌ長田、山崎寧子（敬称略）

参考タイム：8:00 西丹沢自然教室Ｐ8:25⇒下棚沢入渓 9:10⇒9：15　F1　巻き道⇒9:55F4 手前懸垂下降 10:05⇒F7　15m12:55⇒稜線登山道 14:15⇒西丹沢自然教室 P16:05

（感想）
今回は、沢登りというよりも「プチバリエーション登山トレーニング？」という雰囲気の沢登りで、ハードな場面もあり、今までと違った楽しさがあった。
下棚沢は岩盤がもろく。力を入れると、ボロッと崩れ落ちる。木の枝をつかむとサクッと抜ける、ここに立てると思いきや、足を立てると崩れる地盤。跨いだり、くぐったりする灌木。コケだらけの滝は、注意をして立たないと滑り落ちそうになり、ちょっとビビる。
自分のレベルがわからないと滝を登攀するチャレンジ精神も出ず、結局登った巻き道は、ゆるい地盤の急斜面。この急斜面の緩い地盤の山肌を懸垂下降で沢に戻る。沢に戻ると、こんどは滝にロープをかけて登る準備に入る。次から次へとロープの出番。
いずれにしても経験が少ない自分は、ギアの整理整頓も不十分で、ロープがからんで出にくくなったり、スリングが脚に絡まったりと、雑な行動に危険が割り増し。
トップがより動きやすいようにする必要があるのに・・・・。「未熟とは危険とイコール」ということを実体験する。リーダーは「未熟者の扱いに慣れているのか？」、声を荒げることなく注意と指導を繰り返す。
自分には「できない事が多すぎる」。「よくもこのような未熟者を連れていく勇気があるなぁ」と、その器の大きさに感動してしまう場面も。
四苦八苦でつめを終えるといよいよ下山。リズミカルに心地よく、軽快に下山する。

沢登りは、クライミングと登山の要素があり、非常に面白いと感じることができる。仲間がいないとできないこのスポーツは、技能の向上はもちろんのこと、人との信頼関係が必要であると深く感じることが出来た。
「先輩から教わることは、いずれ自分が後輩に教えること」なのだと、意識して指導をうけるべきであり、「安全に楽しく登る」を実践して、はじめて充実感を得ることができる、奥の深い面白いスポーツだと再確認する。楽しい中に、宿題がたくさんできた。「この山行（沢登り）に感謝する。」

追加記：長田

お盆休みに、一日だけ時間が空いてしまい一人で何処かに行こうか？悩んでいた所に山崎さんからジムに行きたいと連絡があったので、昼間から時間取れるなら沢登にしましょうと提案して急遽行ってきました。F1 は見学とは言いつつも、もしかしたら登れるかもと思い、眺めて見ると行けなくは無さそうだけど実際登るとなると踏ん切りがつかないパターンになりそうだなと思いつつ巻きました。懸垂下降の場面では、出来るよねと念を押すと虚ろな目の山崎さんに少し不安も覚えましたが(笑)実戦で二回もやれば身体で覚えたと思います。

反省点

自分も初めて行く所で、一緒に行くのが初めての山崎さんだったので色々と考えていたのですが、今回は山崎さんに滝を見てもらって登れそうか？判断してもらって直登か高巻きか判断してました。

終ってから考えると、初心者の内は登れるかどうか？の判断は出来ないのだから、時間が有るうちは、チャレンジしてもらって駄目なら巻くか、引き上げるかアッセンダーを使用して登ってもらう方が良いなと考え直しました。初心者には手を離さないといけないプルージックよりアッセンダーによる登攀の方が楽なので、沢登をしたい方は岩トレなどで事前にタイブロック等のアッセンダーの取り扱いに慣れてもらうと良いかなと思っています。

＊下棚沢は強固な終了点が無いのと落ち口に適当な立ち木も少ないので、肩絡み確保が殆どです。
脆いのと滑りがあるので行かれる際は注意して遡行して下さい。カムやナッツは小さめの物の方が重宝します。

白峰三山

記：森　律子

日　　時　2014 年 8 月 13 日～15 日
メンバー　L 森（律）大門　鎌形　森花（敬称略）
コース　8/13　松原団地 5：30→奈良田 10：10→大門沢小屋 13：55
　　8/14 大門沢小屋 4：40→農鳥岳 10：05→西農鳥岳 11：10→12：10 農鳥小屋→　　間ノ岳 14：10→北岳山荘 15：46
　　8/15　北岳山荘 4：00→北岳 5：30→肩の小屋 6：00→広河原山荘 9：40

恒例のお盆休みを利用しての山行！

今年は、日本の最高度にある縦走路を歩く計画をたてました。
お盆時期できっと人も多いと思い、色々考慮した結果
登山基地で人気の広河原は絶対に混んでると見込んで逆ルートで計画しました。一番登山口に近い第 2 駐車場まで行くことができラッキーでした。
大門沢小屋では布団が一枚に 3 人寝ることになる究極の「3 個 1」でしたがそれを見込んで寝袋持参でしたので、布団なしのスペースはゆったりしていてゆっくり休むことができました。小屋で眠っていると雨音が・・でも翌日は晴れとことなで明るくなる時間には行動しようと、お弁当を頼んで翌日明るくなるとともに山小屋を出発しました。前日滑落事故がありドクターヘリの音を気にしながらコースタイム 4 時間、低差 1500ｍほどを歩きます（私的には急登大好き）稜線についてここからは日本一高度の高い稜線歩き♪～農鳥岳～西農鳥岳、農鳥小屋では栄養補給で「コーラを GET しよう！」と立ち寄りました「堅物」で有名な小屋番さんに「あなたたちの足では間ノ岳までコースタイム 1 時間 30 分だけど 2 時間はかかるから休憩時間は短く歩くんだよ！」と声をかけていただき結果 2 時間かかったので、農鳥小屋の小屋番さんはすごい人だと思いました。
機会があれは農鳥小屋に泊まってゆっくり色んな話を聞きたいと思いました。
思いのほか時間がかかったので皆そろってチェックインできる時間も遅くなりそうなので、稜線歩きなので迷うことはないと思い、私は先発で小屋まで行きました。
北岳山荘では一人に布団 1 つで、ゆっくり休めました。バスの時間もあり皆さんが頑張って歩いて下さったおかげで、余裕で下山でき、予定通りのバスに乗れて帰ることができました。
待望のお盆休みの山行も久々のお天気で楽しめしました、参加者の皆さまにはありがとうございまた。また、機会があればよろしくお願いいたしますね！

針ノ木岳～唐松岳（2889m）

記：畑野　順二

◆山行日：2016 年 8 月 13 日（土)～16 日（火）
◆山行者：畑野順二
◆コース：8/13　扇沢 5：35-大沢小屋 6：47-針ノ木小屋 9：35
8/14　針ノ木小屋 5：45-針ノ木小屋 6：35-スバリ岳 7：25-赤沢岳 8：55-鳴沢岳 8：55-新越山 10：20-種池山荘 12：15-爺ヶ岳 13：05-冷池山荘 14：15
8/15　冷池山荘 5：15-布引山 6：05-鹿島槍ヶ岳 6：50-キレット小屋 8：40-ロノ沢のコツ 8：50-五竜岳 12：20-五竜山荘 13：15
8/16　五竜山荘 5：30-唐松山荘 7：45-唐松岳 8：10-唐松山荘 9：20-丸山ケルン 9：55-八方池 10：56-八方池山荘 11：45

2011 年 9 月に唐松岳～針ノ木岳に行き、途中で天気が悪くなり種池山荘から扇沢に下山した。今回は、逆コースで針ノ木岳から唐松岳へ行くことにした。
1 日目は、扇沢を 5：35 に出発して、針ノ木小屋に 9：35 につきました。天気がよく山の上でボートして、明日からの縦走に備えました。
2 日目は、種池山荘までのコースタイム 7：45 の今回の一番の長丁場です。天気がよく剱岳・立山を見ながら歩きます。針ノ木岳を含め五つのピークを越えて、種池山荘に 12：15 についたので、冷池山荘まで行くことに計画を変更しました。
3 日目は、八峰キレットなどの岩場の登山道で慎重にあるきます。日頃のおこないが悪くキレット小屋を過ぎた所で雨になり雨具を着て歩きました。ヘトヘトに疲れて五竜山荘につくころには、足の筋肉が悲鳴をあげていました。小屋の食堂で本を読んでいると霧が流れ青空がみえました。日頃のおこないが悪いのか良いのか？？？

5 年ぶりの縦走が無事に歩け満足しました

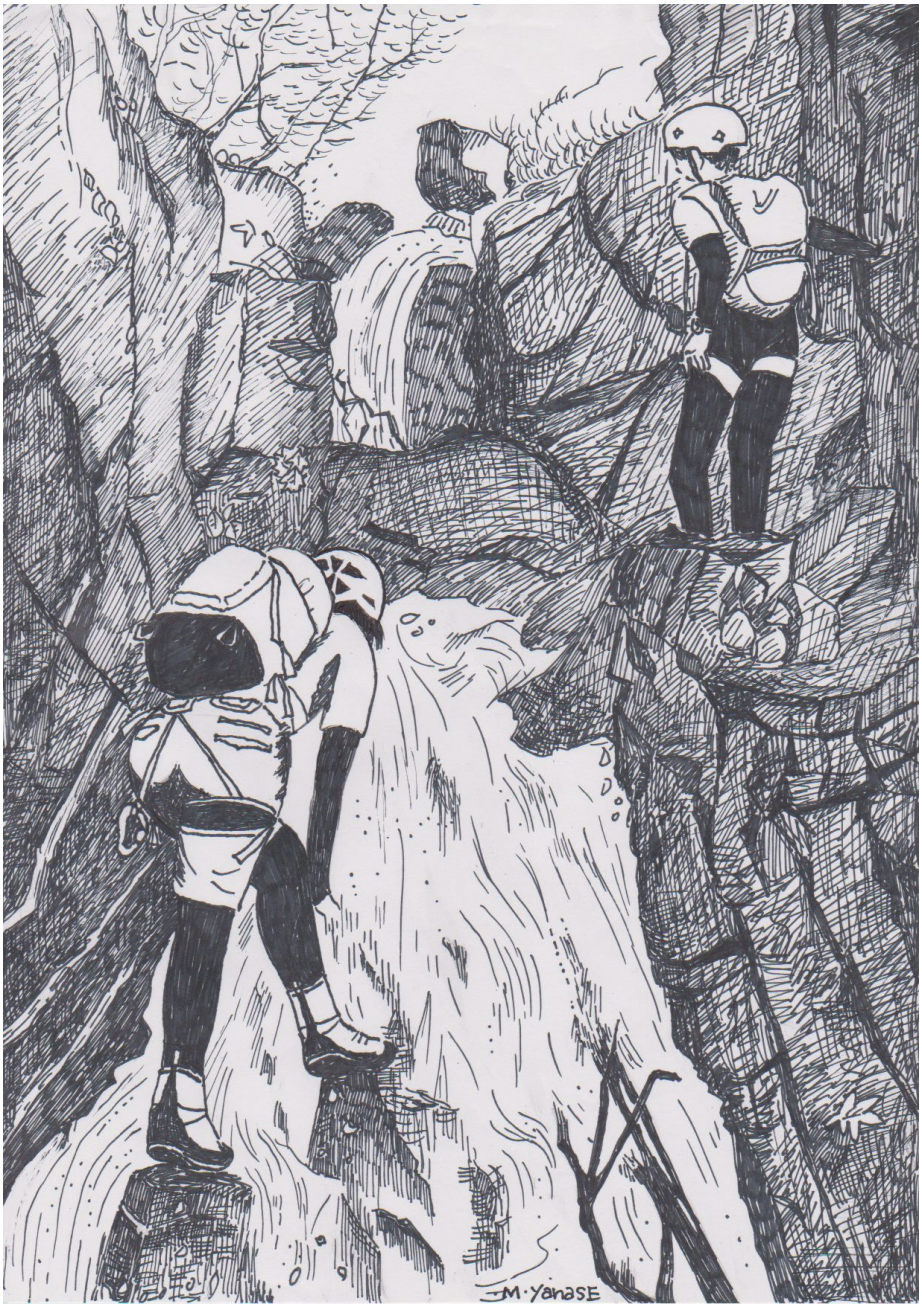
4 日目は、予想に反して天気がよいです。白岳
でご来光を見て、唐松岳へ向かいました。
五竜岳が、霧で見えたり隠れたりしています。
唐松山荘への最後のクサリ場も無事に通過し最後のピーク唐松岳につきました。唐松岳から
は、雲で白馬岳を見ることが出来ませんでした。諦めて八方尾根を下っている途中で、急に雲が流れ白馬岳が現れました。

丹沢大山「大山川右俣の遡行」

松浦　剛

期　日：２０１６年８月２７日（小雨のち雨）
場　所：丹沢大山の大山川右股より山頂へ
参加者：Ｌ，鈴木勝、森律、松浦
記　録：この沢は丹沢大山の山頂に一気に突き上げている沢で、滝も多く中々素晴らしい沢登りが楽しめる。
５時４０分、草加駅西口発。高速は交通量が多く、東名高速では渋滞に巻き込まれる。
８時００分、駐車場発、丹沢大山は雨模様である。大山の阿夫利神社参道は狭く、階段が続き両側はお土産店と旅館となり、江戸時代からの繁栄がしのばれる。初めは気にもせず階段を上っていたが、ケーブルの駅を過ぎると男坂、女坂に別れ、後の事を考え女坂を上るが、いくら上っても急な階段は終わらず、何百段登ったろうか、約５０分階段を登らされる。８時５５分、阿夫利神社下の東屋で休み、神社下の道を右に入り大山川に向かう。大山川には橋が架かり、対岸には二重神社が在る。橋から正面に最初の滝Ｆ１二重の滝が見える。

９時３０分、沢に入る。一見易しそうに見えるF1二重の滝も取りつくと中々難しく、ハーケンは２本打ってある。鈴木トップでアンザイレンして登る。Ｆ１を登り４ｍと７ｍの滝を登ると、５ｍのハングした滝に出合う。滝中央のハーケンに支点を取り、捨てなわを掴み強引に登る。次々と現れる滝を登り遡行を楽しむ。滝と滝の間の河原も短く、登ることを飽きさせない大変良い沢である。３回ほどザイルを使用するが、他はノーザイルで登る。中ほどにあったトイ状の垂直な滝は水流に磨かれ滑らかで、やむなくガイドブック通りに左を巻く。沢の最後にはゴルジュ帯が有り、多くの滝があり中々楽しめる。いつも通りに沢の源流になるとガレ沢となり、落石に注意し右側の急峻な尾根に取りつき、これを登る。木の枝や草を掴んでバランスを取りながら強引に登らなければならず、実に厳しい登りとなる。沢の詰めで雨が降り出す。
１２時３０分、縦走路に出る。最後は実に厳しい急斜面を登らされ直ちに山頂に行く。
１２時５０分、山頂着。びしょびしょになり山頂の神社に着く。沢山の登山者が雨宿りしている。登攀用具をしまい、雨具は付けずにずぶ濡れで下山する。山道はたちまち沢の様に水が流れ、石段が多いので滑らない様に、速足で下山する。
１３時５０分、阿夫利神社に着く。店で暖かい甘酒を飲みケーブル駅に向かう。１０月２７日～２９日は大山阿夫利神社の祭りであるが、正にあふり（雨降り）神社である。



沢登り

編集後記

初めての編集作業で不安でしたが、たくさんの方々に教えて頂きながらなんとか終えることができました。会員の皆様には忙しい中原稿の提出にご協力頂きありがとうございました。　　柳瀬　真由美

草加山の会
SINCE 1974